

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

連番	362	例会No.	OP143	内容	大峰・勝負塚山	実施年月日	2010/11/3	担当者	本郷、三原	参加者数	7
参加者	本郷善之助、三原秀元、神阪洋子、近藤さとみ、小椋美佐、寺島直子、保木道代										
担当者コメント	EPEの例会で前回は春に登頂しているが、今回は紅葉の時期での再訪となる。この山は大峰の前衛の山とはいえ、急峻な上多古川の真っ只中に位置する山で、大峰の秘峰中でも難峰に属する山であろうと思われる。昔は植林用の道も整備されていたようだが、今ではほとんど壊れているため急な尾根を一直線に登っていくような状態である。予定より30分位遅れで頂上に到着、展望は余り良くないが山上ヶ岳の宿坊等がかすかに遠望できる。陽だまりで昼食後下山とする。下山中に樹間越しに見える山は、(後で判ったのだが)白鬚岳が端正な姿で見え隠れしている。時間を気にしながら四時過ぎに下山する。大峰の一般ルートでは味わえない、静かな自分たちだけの山を堪能してきました。記:三原										
連番	363	例会No.	一般213	内容	高野山・女人道めぐりと高野三山-2	実施年月日	2010/11/7	担当者	翁長、松本	参加者数	17
参加者	翁長和幸、松本明恵、加福輝之、岩本和行、仙谷経一郎、磯辺秀雄、山本洋、齋藤容子、近藤さとみ、横内まみね、小椋美佐、柴田弘子、寄川都美子、田中智子、宮平由紀子、翁長あい子、青木義雄										
担当者コメント	ダラダラ登りと開いていた不動坂ですが、黄葉が始まり意外と楽しいコースでした。このコースは下りに使うより登りに使ったほうが良いようです。南海電鉄がパンフレットを作って女人道めぐりを宣伝しているので、女性軍団が押し寄せているのではと覚悟していたのですが、今回のコースでは大門口を除けばたった一人に会っただけで、静かな女人道を歩く事が出来ました。この例会は登山というより歴史をたどるという趣きが強かったのですが、それぞれの女人堂跡はさびしいというか、無残というのか、時代に押し流されていった女人堂という感じがしてなりません。不動坂女人堂以外は跡形も何もない処があり、案内板がないと全く判らないというような事になっています。相の浦口の女人堂跡には小さな石仏が山道の傍らに祀られていました。感慨深いものがあり、ついカメラのシャッターを切りました。もっとも寂しく感じたのが大峰口の女人堂跡です。木立が覆い茂って薄暗く、豊1枚半か2枚程度のやぶ混じりの空き地になっています。女人禁制が解かれて100年ぐらいで跡形もなく、それぞれのお堂は朽ち果てていました。残念なことです。記:翁長										
連番	364	例会No.	一般214	内容	丹波・岩屋山	実施年月日	2010/11/14	担当者	板谷、大西(征)	参加者数	15
参加者	板谷佳史、大西征四郎、寺島直子、寄川都美子、保木道代、神阪洋子、小椋美佐、柴田弘子、宮平良雄、仙谷経一郎、西田保、奥中種雄、黒澤百合子、安本昭久、安本嘉代										
担当者コメント	岩屋山の三角点はアンテナ施設建設により9mばかり低い所に移されたおかげでそれまでは兵庫県丹波の山として第八位の標高だったのが、現三角点の標高をとると第十位とランクが下がるそうです。そうまでして最高点に建てる必要も無いのに・・という人もあるようです。もともとそのお陰で山頂は明るく、展望も開けたとも言えますが、ここのフライト基地は空を愛する人の聖地かと思える雰囲気です。門外漢がいいかげんな事を言っただけですが、風を読み、我が身を託す心情は山屋と共通するところを感じます。空を飛ば開放感と紅葉に心が染まる一日でした。記:板谷										
連番	365	例会No.	一般215	内容	ベーシック登山No. 4 中山連山	実施年月日	2010/11/20	担当者	秋田、本郷	参加者数	26
参加者	秋田文雄、本郷善之助、仙谷経一郎、松本明恵、吉田伸寛、磯辺秀雄、高木恵美子、大西幸孝、寄川都美子、寺島直子、三原博子、岩崎憲代、三原知未、新里トヨ、上原進一、杉本栄子、和田良次、辻角ますみ、和田敬子、津川洋子、藤田喜久江、實操綾子、大岡華子、和田都子、紀伊栞本節雄、紀伊栞本博美										
担当者コメント	今日は天気も良く秋に相応しい絶好の登山日和になり、ツアーなみの参加者26名なり中山駅に下車(9:55)。中山寺は女性の出産の無事安産を祈るお寺でここは腹巻を頂きに参拝する有名なお寺です。山門を潜ると参道は七五三参りなどで賑っている中を通り登山口に到着(10:18)今回初参加の人もおられるのでコース説明と自己紹介を済ませ出発。道は奥の院の参拝の道で古い丁石が点在する雑木林の中を行くとまもなく夫婦岩の東屋(六角小屋)到着(11:50)休息ここから伊丹空港が良く見える景色です。奥の院までは道も良く整備された雑木林の中を木の枝から零れ日を浴びながら爽やかな気分で奥之院に到着(11:35)良く来たと素晴らしい紅葉が都会の我々癒してくれているようです。素晴らしい紅葉をあとに中山最高峰に道はいままでと変わらず雑木林の単純な道を中山最高峰(478m)三角点に到着(12:30)。頂上は人が多いが天気はよし昼食事も美味しい。みんな元気気分爽快。縦走コースへ出発、意気よく出たが道は左右金網の柵が続く黙々と歩き金網の柵が切れた間もなく眼下にゴルフ場が見える。ここからは満願寺西山のピークを目指し景色も楽しみながらひと頑張り。満願寺西山を過ぎ稜線に沿った最後の送電線鉄塔この下からコース難所の岩場へ。岩場はスラブで下降ルートさえしっかり見ればロープを使用する事無く安全に下降できる岩場です。臆することなく全員安全に下降することができました(前回の例会屯鶴峰での岩場の歩き方の練習の成果なのか.....?)岩場下の満願寺分岐の鞍部(15:40)全員集まる休息後下山する。秋の日暮の紅葉と落ち葉の温もりを感じながら静かな山道を山本駅に下山(16:30)到着ここで解散。記:秋田										
連番	366	例会No.	一般216	内容	比叡山南山麓を巡る	実施年月日	2010/11/28	担当者	紀伊栞本、田中(智)	参加者数	28
参加者	紀伊栞本節雄、田中智子、畑山禮子、安田久美子、谷孝司、武田晴之、本郷善之助、秋田文雄、大西征四郎、奥中種雄、仙谷経一郎、青木義雄、神阪洋子、横内まみね、津川洋子、山下登志子、寄川都美子、實操綾子、和田都子、杉本栄子、上原進一、川下淳子、三原博子、三原知未、小椋美佐、和田敬子、紀伊栞本博美、柴田弘子										

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

早朝の大阪ではとほろにより時雨れていた。しかし嬉しいことに、八瀬の叡山口は総勢26名の大パーティを秋晴れで迎えてくれた。今日がおそらく今年最後の紅葉日和になるだろう。企画したコースの都合から、スタートはケーブル比叡を利用した。標高差でいきなり500mも稼ぐと、どこか肌寒い感じ、まさに晩秋という季節が実感できる。比叡山(大比叡)山頂は周囲の観光光化の中に、ひとつぼつねんと取り残されていた。そのくせ立派な一等三角点である。「なんや、つまらんなあー」と呟きながら、何となくこの寂しげな山頂に惜愛の情が湧いてくる。不思議な心境である。雲母坂(きらら)の降り口まで戻って、普通は登山者が登ってくる坂道を、逆に下って行くことになる。ここからが本日の再スタートである。かつて多くの高僧も通ったであろうこの坂道を、汗一つかかずに下っていくのも奇妙な気持である。標高が下がるほどに、名残の紅葉が現れるとそのたびに「フォ～」とどよめき足が止まる。もう10日、いや一週間早ければ満天の紅葉に恵まれたと思うが、それは欲と言うものだろう。雲母坂を半ば下ったところから、南へ尾根を横切り音羽川の上流の細い谷を渡ると、瓜生山(301m)に通ずる尾根道に出る。ここはかつての白川越えの街道の一部である。近江から京に至る街道は他にも在るが、坂本から比叡山麓を越すこの街道は、最短距離でかつ重要な軍事路である。瓜生山は別名、勝軍山、北白川城ともよばれていた。室町時代の後期から戦国時代にかけて、白川越えの街道を制する主要な山城である。応仁の乱のあと、落日の足利将軍のもと細川政権の役割を担う細川高國をはじめ、この城に関わる攻防戦は幾度もまた幾多の権力者に及ぶが、多くは陰謀と裏切りの巷で、後世に名を残すほどの名將は残念ながら登場しない。

旧街道に会した所を大鳥居という(実際に鳥居が立っている)。ここから南西に、瓜生山に至る1時間ほどの尾根道は本当に素晴らしい。高低差も程よく、洛北の里山にふさわしい自然林に包まれた、静かな山道である。京都周回ルートの標識があるが、行き交う登山者はまれである。細いがしっかりとした道に、名残の紅葉とその落葉を散りばめた模様は、まるで晩秋の間を行く思いである。いつまでもこうあって欲しい、そう願いつつも、私自身は総勢26名の皆さんとガヤガヤ賑やかに歩く事に悦びを感じている。この矛盾はなんだろう、難しい事は考えぬことにしよう。そして、瓜生山を西に30分も下ると一乗寺下り松である。今日はそこで、京仕立ての湯豆腐に一献頂くお膳立てが待っている。時刻も季節も天候も総てよし、お腹の虫までよしと鳴るのだからこれを、しあわせ(四合わせ)というのだろう。今日もまた元気に一日、里山の楽しみを味わう事ができました。記:紀伊栞本(節)

一乗寺下り松へ下山して詩仙堂辺りまで来ると、名残の紅葉を求めてそぞろ歩く観光客の間を縫って、今日のプラスαのお楽しみ、湯豆腐「豆花」の京らしい風情のあるお店にたどり着きました。甘い大豆の香りに迎えられると食膳に着くと、まずコトコト湯気の立つ土鍋からお豆腐を戴き、湯葉さし、胡麻豆腐、生麩餅田楽、温泉卵と箸を進めるうちに、あっさり味の鍋が炊くほどにこくが出て、まるやかな舌触りを楽しませて頂戴できるようになる。ほんに二様のお豆腐を味わったような気分で、美味しかったと納得できました。ご当地地酒「きらら」も賞味させて頂き、気分は上々、見回すと皆さんの笑顔も笑顔、笑顔。最後は豆乳の煮汁までしっかりと平らげて大満足のあと、おひらきとなりました。ご馳走様でした。記:田中(智)

担当者  
コメント

連番	367	例会No.	一般217	内容	鈴鹿・綿向山	実施年月日	2010/12/12	担当者	紀伊栞本
参加者	紀伊栞本節雄、仙谷経一郎、大西征四郎、寄川都美子、寺島直子、紀伊栞本博美							参加者数	6
担当者 コメント	<p>近江鉄道八日市駅も、近頃は随分お馴染みになってきた。ここからタクシー(小型約6000円)で綿向山登山口へ向かう。幸い天気は上々である。初冬の初雪をいづらか期待してきたのだが、そんな気配は微塵も無い。登山口9:30着。ヒミズ谷出合から五合目小屋まで、植林の中を律儀なほどジグザグに登る。少し手が入り過ぎかと云えば叱られるが、表参道と呼ばれている登山道はそれ程よく整備されている。ようやく山道らしくなるのは7合目の行者コバを過ぎてから上部である。だが、さすがに人気の山だけあって、その山頂は素晴らしい。到着した一瞬、アッと息を呑む迫力で鈴鹿の全貌が見渡せた。急いで寒さに備える内に、その大パノラマは雲間に消え失せてしまったが、真近く対峙して見る鎌が岳の怪奇な岩峰は、飽くことなく眺められた。よく晴れた日は北アルプスまで遠望できると云う。たしかに、ほどよい広さの山頂は周囲からせり上がった様な形状で、展望台としての条件は全て備わっているようだ。またの機会があればぜひ見たいものだ。下山路は水無山北尾根コースとした。表参道があまりにもきっちり整備されていたので、それに比べると意外なほど悪路である。北尾根コースという名は付いているが、コースの大半は尾根の山腹を巻くルートで、斜面の崩れから道を維持するのは大変だと思う。しかし道標はしっかりしているので迷うことはない。所要時間の算定は、その場の状況次第でやや難しいものになるが、まあ少しは緊張した方が初見の山には相応しいと云うものだ。15:00 ヒミズ谷出合で往路と合流した。あとは登山口まで20分ばかり、予約したタクシーとピタリと同着する事が出来た。来春、歴史探訪に予定している鈴鹿越え旧千草街道のタイムスケジュールが、この山行で一段とイメージされたように思う。一つの出会ってからまた一つの出会いが始まる。山登りの楽しさは尽きることがない。記:紀伊栞本(節)</p>								

連番	368	例会No.	一般218	内容	和泉山脈・大石ヶ峰	実施年月日	2010/12/19	担当者	本郷、秋田
参加者	本郷善之助、秋田文雄、安本嘉代、寺島直子、安岡和子、黒澤百合子、大西征四郎、奥中種雄、加福輝之、仙谷経一郎、紀伊栞本節雄、安本昭久、小椋美佐、田中智子、神阪洋子、柴田弘子、西田保							参加者数	17
担当者 コメント	<p>大石ヶ峰は800mを超える標高がありながら和泉葛城山や三国山の陰に隠れた静寂な山である。昨年の12月例会経塚山に続いて今回はその大石ヶ峰に登ります。泉北高速和泉中央駅よりタクシーで父鬼バス停まで入る。車道を進んで左に三国山のレーダーを見ながら明神橋を渡ってすぐ右の踏み跡にに取り付く。しばらく沢にからんで進むが、枝沢を渡って左の斜面を登って行く。林の中、下草の繁った踏み跡の薄い道を拾って進む。左に急角度に折れ、雑木林をトラバース気味に進み標高をかせぐ。左に三国山の稜線や経塚山が見えてくると稜線のコルに出、古い作業小屋がある。更に左に進み少し登って左に折れ南に向かって進む。痩せた尾根を進むと、急登となり、741mのピークに着く。なおも尾根をたどり右へ登ると右側に大阪湾が見えてくる。窪地をとおる左へ鍋谷峠への道を分かれ、右へ一直線に進めば大石ヶ峰頂上へ出る。山頂の南斜面で冬の太陽に当たりながら昼食とする。山頂から右手の今までと異なつたしっかりした道を進む。道はモトクロスのバイクが通るようでタイヤ跡があり、溝状態である。一等三角点を確認して新しい電波塔が何本も出来ている和泉葛城山に着くとバイクや自転車も多く停車して売店もあり人も多い。展望台よりかすかににぶく光る紀ノ川をへだて、龍門山、飯盛山が浮かんでいる。あとは二十一石地蔵道を牛滝山、大威徳寺へ下るだけ、下部は長い階段を降りる。紅葉も終わり人影のないお寺へ下山した。昨年12月の経塚山に続き和泉山脈でもまだまだ隠れたピークやコースがあるものです、今後もあまり知られていないコースやピークを求めて歩きましょう。記:本郷</p>								

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

連番	369	例会No.	一般219	内容	大峰・小峠山	実施年月日	2010/12/23	担当者	板谷、安部	
参加者	板谷佳史、安部泰子、宮平良雄、奥中種雄、長瀬茂正、柴田弘子、黒澤百合子、三原秀元、近藤さとみ、小椋美佐、安本嘉代								参加者数	11
担当者コメント	大峰主脈には数々の名峰が連なりますが、縦走路上以外からその容姿を間近に見るのは意外と難しいものです。そのためには主脈から東西に派生した尾根を辿るのがとっとり早いようです。そのかわり、一部の前衛峰としてよく知られたピーク以外は果たして登山道らしきものでも有るのかどうか定かではありません。今回の小峠山もそういう意味で前から気になっていたピークでした。今年のまだ残暑厳しい9月に登頂を果たしたので、クラブの例会に取り上げることにしました。例年この時期は年末の寒波による冬景色が見られることが多いので、今回も期待して計画したのですが、登りには汗ばむくらいの陽気となり、今冬一番の冬山気分を・・とは、かけ離れた例会となってしまいました。夏は展望が得にくい樹林の尾根や山頂もすっかり冬枯れて葉を落とし、大台や大峰南部のすっきりした展望が楽しめました。また往復にタクシーやバスを使用する予定でしたが、マイカーで参加された方に全員便乗することができ、バス時刻を気にせず行動できて助かりました。 記:板谷									
連番	370	例会No.	一般220	内容	養老山脈・養老山	実施年月日	2011/1/9	担当者	三原、翁長	
参加者	三原秀元、翁長和幸、大西征四郎、宮平良雄、板谷佳史、神阪洋子、小椋美佐、近藤さとみ、西村晶、寺島直子、黒澤百合子、安本嘉代、安本昭久、安岡和子、保木道代								参加者数	15
担当者コメント	年末来の寒波で今年初めての例会は、相当量の雪の洗礼を受ける覚悟で、輪かんやピッケルまでも持参で出かける。しかし思ったよりも気温は下がらず、積雪30センチ前後でちょっと拍子抜けの感じでしたが、正月太りの体には調度よいトレーニングにはなりました。JR大垣駅よりタクシーで養老の滝の上まで入る。林道をしばらく行き沢を渡って急なジグザクの登りに取り付く、一汗も掻かないうちに登山道は踏み固められた雪が出てきたので、アイゼンをつけることとする。途中三方山という展望台で視界は開けるが、遠くは雪空で余り遠望はきかない、晴れていれば御嶽山や伊勢湾の向こうに富士山も見えたかもしれないのに残念・・・ 主稜線に上がり小倉山で昼食とする。西の方向には霊山岳が真っ白な頭を少し覗かせている。次のピッチで養老山の頂上に着くが1等三角点の割には展望もなくちょっと失望です。養老山は近畿100名山にも選ばれている山ですが関西の人は少なく名古屋圏の人が圧倒的に多い山です。この度、参加者の近藤さんがこの養老山で近畿100名山を完登されました。おめでとうございます。これからも次の目標に向かって頑張ってください。 記:三原									
連番	371	例会No.	一般221	内容	新年ハイキング・根古峰	実施年月日	2011/1/16	担当者	大西(恒)、岸本、磯辺	
参加者	大西恒雄、岸本久仁雄、磯辺秀雄、紀伊埜本節雄、紀伊埜本博美、奥中種雄、秋田文雄、三原秀元、翁長和幸、板谷佳史、仙谷経一郎、安部泰子、松本明恵、安岡和子、真下好雄、岩本和行、川崎喜美子、永島健一、横内まみね、大西幸孝、津川洋子、山田春雄、黒澤百合子、近藤さとみ、保木道代、寄川都美子、加福輝之、山下登志子、川守田康行、達健一、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、山本洋、吉田伸寛、岡本佳久、上原進一、三浦清江、杉本栄子、和田都子、藤田喜久江、川下淳子、宮平由紀子、齋藤容子、村濱孝子、小椋勝久、小椋美佐、梶田誠寛、西村晶、西村美幸、杉山僚、大谷裕昭、柴田弘子、田中智子、畑山禮子、大西征四郎								参加者数	56
担当者コメント	例年、新年会場「紀伊見荘」を終点としたハイキングを実施してきたが、回を重ねると同じところを計画することになる。今回も前に来た天見の里から流谷沿いのアシ谷を経て根古峰、紀見峠というコースを企画しました。総勢56名、天見駅前狭いので人数の確認を済ませて、早々に出発する。国道371号線を横切り、流谷沿いの村中の道を抜けると、流谷八幡の少し先でアシ谷の標識が出てくる。標識に従って谷沿いの山道に入り、一時間ほど進むと谷を離れて根古峰に伸びる尾根にジグザグに上がっている道を登ることになる。雪がうっすらとのっている。道の折れ曲がったところから振り返ると長い行列が続いていた。目印の鉄塔の付近では雪がルートを目で追いついていく。靴底あたりの深さであるが、ダイトレと出会うまではルートを目で追いついていく。ダイトレと出会い、三合目から根古谷への下りを右に見て直進すると、後は紀見峠まで一本道である。長い木の階段状道をひたすら下ると、後は上り下りを繰り返してうんざりする頃に紀見峠着、アスファルトの道に出た。ここまで来ると勝手知った道という感じで、懐かしい感じのする村中の道をゆっくりと新年会場の「紀伊見荘」に下った。 記:大西(恒)									
連番	372	例会No.		内容	新年会「国民宿舎・紀伊見荘」	実施年月日	2011/1/16	担当者	大西(恒)、大西(征)	
参加者	大西恒雄、大西征四郎、竹中喜三郎、本郷善之助、深井英司、紀伊埜本節雄、紀伊埜本博美、和田晴次、神阪洋子、岸本久仁雄、奥中種雄、秋田文雄、磯辺秀雄、三原秀元、西田保、翁長和幸、畑山禮子、板谷佳史、仙谷経一郎、安部泰子、安岡和子、真下好雄、岩本和行、青木義雄、柴田弘子、川崎喜美子、永島健一、徳平忠久、田中智子、横内まみね、大西幸孝、津川洋子、山田春雄、黒澤百合子、近寄川都美子、加福輝之、山下登志子、川守田康行、達健一、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、山本洋、吉田伸寛、岡本佳久、上原進一、三浦清江、杉本栄子、和田都子、藤田喜久江、川下淳子、宮平由紀子、齋藤容子、村濱孝子、小椋勝久、小椋美佐、梶田誠寛、飛田典男、西村晶、西村美幸、杉山僚、大谷裕昭								参加者数	64

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

担当者コメント	宴会に先立ち、紀伊見荘一階の別会場で、2010年度の活動報告、会計報告、最多参加者賞の発表を行う。その後恒例になっている講習会を行う。講師は、泉州山岳会会員であり、大阪府山岳連盟理事長でもある飛田典男さんにより「最新のテーピング方法とその活用」。スライドを活用しての講習でありました。時間的に制約のある中での講習であり、「テーピングとは」の紹介的なことで終わりましたが、またいずれかの機会に実習できればと思いました。この後宴会は会場を変えて行いました。恒例の福引では用意した賞品の他に、本郷さん提供の写真、和田晴次さん提供の絵もあって大いに盛り上がり、2011年の新年会も盛会裏のうちに終了しました。記:大西(恒)							
連番	373	例会No. 一般222	内容 高見山地・三峰山	実施年月日	2011/1/23	担当者	翁長	
参加者	翁長和幸、奥中種雄、安本昭久、安本嘉代、保木道代、杉本栄子、小椋美佐、寄川都美子						参加者数	8
担当者コメント	霧水の三峰山と云われていますが、今回は霧水はありませんでした。しかし不動滝コースと登り尾コースの合流地点(1100m)からは、積雪量が急に増え冬山らしい景観になっていました。不動滝コースのほうが登山者は多いようで、合流地点からは行列状態で山頂まで続いています。おおぜいの人で頂上は賑わっていました。八丁平に入ると登山者は激減します。山頂のにぎわいはウソのようです。下山路の新道コースでは、前方に1パーティがいただけで、静かな雪山を味わえました。記:翁長							
連番	374	例会No. OP144	内容 東北スキー場めぐり-4青森・鱒ヶ沢	実施年月日	2011/1/30~2/2	担当者	紀伊莖本、大西(恒)	
参加者	紀伊莖本節雄、大西恒雄、本郷善之助、西村晶、西村美幸、和田良次、和田敬子、笠松マサエ、宮平由紀子、小椋美佐、杉本栄子、内杉安繁、上原進一、寺島直子、保木道代、岩崎真美子、清水洋子、星山洋子、紀伊莖本博美						参加者数	19
担当者コメント	全国的な寒波で各地に大雪警報が発令されていた。飛び上がった航空機が青森空港に着陸できない場合、伊丹空港まで引返すという、それではこの例会は消滅してしまう。気のせい機内はガラ空きだ、気が気でない一時、おかげで無事に着陸したときはほっとした。スノータイヤを履いているな、と誰かが言った、いやボーゲンで止まったぞと返してやるとどっと大笑、誰もがほっとしたのだろうか。初日は午前中にチェックインが出来たので、各自で準備体操や食事に勤む者など様々だ。中にはそのまま即ゲレンデに飛び出した人もいたが、14時に一旦集合してゲレンデ内での確認事項を申し合わせることにした。視界の悪い中、ゲレンデとはいえ不慣れな初日は油断できない。それに1年間のブランクを埋めるのが大変だ。私に限って言えば、それは単に技術の問題ではない。「なんでこんなにビビルの？」と自分自身に問い掛ける事から始まるからだ。2日目と3日目は予期した通りの激しい風雪と寒気。それでもよかったことはサラサラの雪、板に抵抗が無いのでまるで宇宙遊泳、立ち止まっても頭がフワフワと揺れているような奇妙な感覚、帽子も上着も手袋も全く濡れていないのに驚いた。その上、なんと快適に滑ることか、EPEドルフィンチームがこんなに綺麗に足並みがそろった事は無い。何だ、良いことばかり並べ立てたが、それほど良かったと言う事だ。4日目にしてやっと晴れた。昨年のアツビ高原も一昨年の蔵王もその前の雫石も、最終日を選ぶかのように至福の時を与えてくれた。よく学んだ(遊んだ)ことへのご褒美だろう。前回と同じ様に午後2時までチェックアウトを延長し、あとは皆さんの上達振りに見惚れながら、目一杯楽しく滑りまくった。東北スキーシリーズも早や4回が無事終わった。熱心な常連に新顔の加わった総勢19名は目立った存在である。並んで一人ひとりと滑り出すと、学校団体も避けて通ってくれる。幅広で長いバーンも、ときにはコース一本がまるまるEPE専属のゲレンデと化すことがある。ありがたいことだ。毎度のセリフで申し訳ないが、昔、近郊のゲレンデで滑ったワンシーズンと、ここでの1日の滑降距離は匹敵するだろう。つまり3日滑れば3年分ということだ。今年はスキーが日本に到来して100年目という。新聞紙上に業界関係者たちは100年来の不毛が続くと訴えている、正にその通りだろう。そんな記念する年とは露知らず、昨年の今頃、私はこのコメント欄に今は100年に1度の好機到来と呼び掛けていた。裏を返せば同じことだが、やっぱり密かに恩恵を蒙っていたのである。まあ善良なる我々庶民にとってこれぐらいは許されてもいいだろう。ちなみに、この鱒ヶ沢スキー場は紆余曲折の末、現在のオーナーは韓国の実業家だという。次の週末はオーナー自から韓国祭を催し、大勢の客と韓国芸能界の大物スターを引き連れてやって来るという。青森空港には韓国からの直通便も再開された。観光日本に生まれ変わろうとするのは時代の趨勢だが、こんな自然の恩恵を黙って見過ごして来たのはちょっと惜しい気がする。スキー場が華やかになりし頃、自分は好んで山に籠もっていたいながら今さら偉そうな口は利けないが、あの芋の子を洗うようなスキー場で育ってきた方々、山スキーの醍醐味を味わえなくなったご同輩、そしてまずはEPEの皆さん、今、本当に楽しいスキー場が、この国の北の大地にゴロゴロとして貴方の出番を待っています。スキーを生涯スポーツとしてもう一度見直してみても如何でしょうか。年齢に関わらず、やれば必ず進歩する楽しいスポーツに違いありません。「老いて学べば朽ちること無し」かの佐藤一斉の言葉を座右の銘とし、さらに自らに即して『老いて遊べば朽ちること無し』を、実践してみようではありませんか。記:紀伊莖本							
連番	375	例会No. 一般223	内容 有馬富士	実施年月日	2011/1/30	担当者	板谷、大西(征)	
参加者	板谷佳史、大西征四郎、田中智子、柴田弘子、奥中種雄、青木義雄、神阪洋子、寄川都美子、近藤さとみ、谷村洋子、安本嘉代、岸田暎子						参加者数	12
担当者コメント	どうせなら思い切りハイキングっぽい、真冬のハイキングを計画してみました。駅から乗り物を使わず歩く・・・というのが、せめてもの抵抗か？それにしても至れり尽くせりに整備された公園の見本のようで、日本人が公園を作るとかく、このようなものになるのか？と疑問を感じながら歩きました。それでも有馬富士の山頂直下の登山道付近だけは、わずかに「山」に来たと感じられる雰囲気があり、救われました。もっとも有馬富士共生センターなるりっぱな設備に立ち寄り、暖かい薪ストーブを囲んで昼食させて頂いたのだから、文句は言えませんが・・・歩行距離、時間的には少々物足りない山行でしたが、足を延ばした花山院も西国観音霊場巡りの観光気分ではなく、山麓にある十二妃の墓や境内奥にひっそり佇む法皇の墓等を訪ねてみることで、充実した一日となりました。記:板谷							
連番	376	例会No. 一般224	内容 淡路島・先山、論鶴羽山、灘黒岩水仙郷	実施年月日	2011/2/6	担当者	翁長、三原	
参加者	翁長和幸、三原秀元、岩本和行、近藤さとみ、笠松マサエ、安本昭久、安本嘉代、川崎喜美子、寄川都美子、櫻田克彦、紀伊莖本節雄、翁長あい子						参加者数	12

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

<p>担当者 コメント</p>	<p>泉南から見える淡路島の山を一度登ってみよう企画しました。論鶴羽山登山口の黒岩バス停駐車場に入ったところ、地元の人が「登山の方は林道に駐車して下さい。」という。どうやら灘黒岩水仙郷に向かう車をこの辺りから整理しているらしい。ここから水仙郷まで、まだ1キロ程あるというのに。バス停から見える石の鳥居から登山道が始まる。かたわらには十八丁石に彫られた仏さまが立っている。舗装道路から離れミカン畑を過ぎ、ただ黙々と雑木林を登る。この登山道には享保年間の丁石があるので、昔からよく利用された道だと思っただが、国土地理院の地図には何故か記載されていない。論鶴羽神社から90m程の高差を登り頂上へ。ここでランチタイムとする。晴れてはいるが、もやっているので友ヶ島は見えない。元きた道に戻り車の所でビックリ。水仙郷へ行く人と車の多さに驚いた。混雑している中うまく無料のシャトルバスに乗り、灘黒岩水仙郷へ向かう。入り口はさらに混み合っている。水仙を見るのは、そこそこにして先山へ向かう。予定時間をオーバーしているので車で先山・千光寺に登る。901年創建の名刹であるそうだ。仁王門の仁王像は運慶の作と云われ、随所に歴史の重厚さを感じる千光寺であった。残念な事に448mという測量地点を見出せなかった。一日で3ツ目標をこなすのは少し、きつかったかも。記:翁長</p>				
<p>連番</p>	<p>377 例会No. 一般225</p>	<p>内容 湖南・鶏冠山</p>	<p>実施年月日 2011/2/11</p>	<p>担当者 大西(征)、大西(恒)</p>	
<p>参加者</p>	<p>大西征四郎、大西恒雄、板谷佳史、仙谷経一郎、黒澤百合子、宮平由紀子、杉本栄子、寄川都美子</p>			<p>参加者数 8</p>	
<p>担当者 コメント</p>	<p>この企画は2007年1月にも一度実施されています。金勝アルプスの鶏冠山、天狗岩、竜王山を巡るこのコースは、丁度一周するのに余り無理のない位置に各ピークがあります。また、狛坂磨崖仏は山岳仏教の名残として、昔この地が修行の場として栄えていた、そのことを教えてください。まさしくこの地は修行の地であつたのであろうと思われまふ。前回の報告では雪もなかった所為か、皆さんのんびりハイキングされているように見え、とても厳しい山岳修行の場とは見えませんでした。今回雪の山道を歩いて少しその厳しさを味わうことができました。記:大西(恒)</p>				
<p>連番</p>	<p>378 例会No. OP145</p>	<p>内容 比良・武奈ヶ岳</p>	<p>実施年月日 2011/2/12~13</p>	<p>担当者 本郷、長瀬</p>	
<p>参加者</p>	<p>本郷善之助、長瀬茂正、宮平良雄、奥中種雄、村浪義光、柴田弘子、田中智子、安岡和子、神阪洋子、安本嘉代、小椋美佐</p>			<p>参加者数 11</p>	
<p>担当者 コメント</p>	<p>昨年も蓬萊山から小女郎峠の例会で比良山へは来ましたが、雪不足で少しものたりなかったもので、今回は坊村から武奈ヶ岳を越えて比良駅までを計画しました。今年は例年以上に積雪が多く予定コースを歩くには時間がかかりかきそうでした。前日発で梅ノ木、石楠花山荘さんに宿泊をお願いし早朝坊村まで送ってもらうことにし、計画を実行しました。2月初旬に電話連絡した時の雪の状況はかなりの積雪があり、登山者も少ないとのことであつた。出発前の2月12日午前中、電話で雪の状況を聞くと2月11、12日共に現地では雪が降っていないとのこと今週は降雪はほとんど無く雪はかなり締まっているとのことだ。少し気が楽になる。前夜はのんびり夕食をして雑談して英気を養う。2月13日 4:30起床、5:30出発、全員6:00前に坊村登山口に到着、冬の装備とヘッドランプを着けて出発する。前夜よりの新雪は20cm程度あり、前日来の踏み跡が消えて植木の急なジグザグ道を登る。標高800mを越えると登りは少し緩やかになるが新雪が増えて先頭のラッセルは大変だ。2名がワカン装着してがんばる。他者も全員アイゼン、ワカン無しで比良駅までがんばった。吹き溜まりは腰以上になる、御殿山近くになると尾根上に出て風も強くなってきた。もう一頑張り御殿山に着く頃、ガスの切れ間から武奈ヶ岳への稜線が少し見え隠れしている。風も強く雪も降って寒い、好天であれば良い展望の場所であるが尾根の東側へ風を避けて一休みする。これよりワサビ峠に下り西南稜の登りだ。時々ガスの切れ間から武奈ヶ岳と稜線が現れる。8時に坊村を出たという後発の人達が我々を追い越して行く。11時少し廻って武奈ヶ岳の頂上に着いた。出発より5時間だ、頂上は比良駅側より登って来た人達もいてトレースがついている。頂上の東斜面に少し下り風雪を避けて一休みする。上部はかなり大きな雪庇が出来ている。この後コヤマノ分岐を経て八雲ヶ原へ向って降りていくトレースが有り、楽に歩いて予定より早く時間が節約できそうだ。一度スキー場とした無残に伐採された斜面が広がっていて元の静かな八雲ヶ原に戻る事は残念ながら無いだろう。北比良峠を経て、カモシカ台を通り大山口を下山する。振り返ると金糞峠が望まれる。雪も減ってイン谷口に着く。広場には車が20台程止まっています、かなりの人がこちらから登っている事が判明した。その後、比良駅に16時少し前に着いて、今回の山行を終えました。実働10時間の行動でした。記:本郷</p>				
<p>連番</p>	<p>379 例会No. 一般226</p>	<p>内容 須磨アルプスから一の谷</p>	<p>実施年月日 2011/2/20</p>	<p>担当者 紀伊栞本、柴田、小椋(勝)</p>	
<p>参加者</p>	<p>紀伊栞本節雄、柴田弘子、小椋勝久、畑山禮子、徳平忠久、小椋美佐、安本嘉代、安本昭久、田中智子、横内まみね、内杉安繁、上原進一、秋田文雄、青木義雄、津川洋子、加福輝之、櫻田克彦、杉本栄子、仙谷経一郎、大西征四郎、寄川都美子、紀伊栞本博美、本郷善之助、川下淳子、和田敬子</p>			<p>参加者数 25</p>	

<p>担当者 コメント</p>	<p>先週来の寒波も緩み、今日は冬晴れの穏やかなハイキング日和である。出発点の板宿駅(山陽電鉄)から須磨アルプスを東から西へ逆周りにして、一の谷を下るのが今日のハイキングである。一の谷は鉄拐山(てっかいさん)と旗振山の鞍部から、須磨浦海岸に向かう小さな谷筋である。源平合戦のハイライト「義経一の谷の逆落し」とは、通説この位置から劇的な奇襲を企てた義経軍によって、平家軍は一気に壊滅したとなっている。一方、須磨アルプスは遙か東に連なる六甲山脈の西端である。最西端の鉢伏山は塩屋の海岸に直接連なっており、そこから六甲山脈を縦断して宝塚に至る50キロの全山縦走は、今や登山者のお株を奪いヒルラン愛好者のメッカとなっている。とは云へ今日の参加者の大半はこの全山縦走の洗礼者である。その頃は、この尾根の南北に広がる山や海に何の興味も関心も無かったのだが、今や尾根の一端に立ち、しげしげと眺め、呟き、歴探(歴史探訪)を語るとは笑止千万だと思ふ。が、これも時の流れと言うものだろうか、ご容赦願いたい。一の谷を望む恰好の場所で、O氏の講話が始まる。題して『源義経像』なかなか聞き応えのある講話である。これでは今に木戸銭が必要になるだろう。続いて平家軍の陣立てと須磨浦の悲哀に付いて拙論を聞いて頂く、あとに続く歴探と食探(+α)の時間を計りながらのお喋りで、まだまだ存分に語り尽くしたとは思わない。真打ちYさんの出番である。平家物語の序文と懐かしい『青葉の笛』の唱歌である。青空のもと情感こもる歌声に、一同我が身を洗われる想いで聞き入る。記憶をたどりながら唱和した人も多いので、ここに改めて書留めて置きましょう。</p> <p>平家物語 一の巻の序文 青葉の笛 作詞:大和田健樹 作曲:田村虎蔵</p> <p>祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 一の谷の 軍(いくさ)やぶれ 更くる夜半に 門をたたき          沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理を現す 討たれし平家の 公達あわれ わが師に託せし 言の葉あわれ          奢れる人も久しからず唯春の夜の夢のごとし 暁(あかつき)寒き 須磨の嵐に いまわの際まで 持ちし籠に          たけき者も遂には滅びぬ偏に風の前の塵と同じ 聞こえしはこれか 青葉の笛 残れるは『花や 今宵』のうた          (若武者 平敦盛を偲ぶ詩) (平薩摩守忠度を偲ぶ詩)</p> <p>さて私の企ては更に続く、一の谷の史実は果たしてこの場所での出来事なのだろうか。皆さんをここに誘いながら何とも不遜なことだが、実は一の谷の在りかは、平家の本拠地 福原の京を直撃できる場所でなければならぬと思っている。そうでなければ、数で優る平家軍を僅か2時間で壊滅させることなど出来ない。ここ須磨浦は確かに平家陣容の西の強固な砦に違いないが、平宗盛の本陣、大輪田泊まで7キロも離れているのである。ではその一の谷は何処に在るのか? 多くの郷土史家の間でも義経逆落しの論争は古くから続いているそうである。私にはそれに加わる知識も教養もないが、もし何か役立つものがあるとするれば、それは長年培ってきた山歩きの知識と技術だろう。馬が通えるかどうかはさて置き、人が通えるかどうかの判断や、その場で実際にそれを試し、そこから何かを推論するのは私の得意とするところである。折しも来年のNHK大河ドラマの主人公は、平清盛だそうである。できればその頃までに、私の勝手な推論を確たるものに仕上げたい。例会『一の谷歴史探訪その2』を再度企てますので、その節は何卒ご期待ください。 記:紀伊壱本</p> <p>プラスアルファ食探訪</p> <p>明石駅から歩いて6~7分に魚棚(うおんたな)商店街があります。蛸料理の店「浪花」はその一角にありました。魚棚(うおんたな)は地元の新鮮な魚貝類を扱う店が軒を連ねる商店街で、少し時間が早かったので、皆さんに散策してもらうことになりました。ブラブラ歩きながら試食をしたり、買い物をしたり、ときには売り手を冷やかしながら、それぞれ自由時間を楽しみました。冬の明石の蛸は小ぶりで軟らかく、夏には泉州沖で捕らえられるそうです。「浪花」さんは、板前さん始めお店の方は親切で、早速ビールやお酒の注文にかいがいく応じて下さり、各テーブルから乾杯の音がひびきました。口に入ると吸盤が吸い付くような刺身。飲み干してしまふほど出汁の美味しい蛸シャブ。最後は蛸稲荷に舌鼓を打つ頃、満腹、満足顔の皆さんがすっかり出来上がりました。今日一日のハイキング、歴史探訪、プラスαの楽しかったことを胸に、笑顔でそれぞれの帰路につきました。蛸、蛸、蛸、美味しかったです。 記:柴田</p>
<p>連番</p>	<p>380 例会No. 一般227 内容 丹波・小金ヶ嶽 実施年月日 2011/2/27 担当者 板谷、三原</p>
<p>参加者</p>	<p>板谷佳史、三原秀元、小椋美佐、杉本栄子、近藤さとみ、仙谷経一郎、神阪洋子、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子、岸田映子 参加者数 11</p>
<p>担当者 コメント</p>	<p>2月後半は一気に春めいた気候になってしまい、期待した冬山気分は全くダメで、とりわけ本日は4月並みの気温となって暑いぐらいの例会でした。多紀アルプス・小金ヶ嶽は2007年2月に三嶽からの縦走として例会が実施されているのですが、丹波でも一二を争うアルペン的な山ですから二度目も許されるだろうと、企画しました。ただし、今回は東面の笹見48滝を経て、東から縦走することにしました。残念ながら積雪ゼロで、せつかくの雪山装備は担いだけに終わってしまいましたが、他の登山者に全く出会わない山行が出来たと喜んで頂けました。今回でEPE例会による三尾山から笹見48滝までの多紀アルプス縦走路がつながりました。残すところは更に東部の八ヶ尾山、雨石山、櫃ヶ嶽のみとなります。来る春から夏に例会実施の予定をしています。 記:板谷</p>
<p>連番</p>	<p>381 例会No. OP146 内容 第9回スキーカーニバル in 北海道夕張マウントレースイ 実施年月日 2011/3/6~10 担当者 紀伊壱本、西村(晶)</p>
<p>参加者</p>	<p>紀伊壱本節雄、西村晶、本郷善之助、和田良次、和田敬子、笠松マサエ、杉本栄子、上原進一、山下登志子、山田春雄、達健一、安本昭久、安本嘉代、紀伊壱本博美 参加者数 14</p>

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

<p>担当者コメント</p>	<p>夜半に雪が降り、翌日は快晴という日が3日間も続いた。一度緩み始めた今年の寒波が再び舞い戻ったようである。おかげで夕張(マウントレースイ)スキー場はここ数十年、味わった事がない好コンディションですと、地元のスキーヤーがそっと教えてくれた。暖冬のせい、あるいは立地条件が悪いのか、例年の今頃はカリカリのアイスバーンか、雪不足で嘆くそうである。ありがたいことである。北海道の大型スキー場はほぼ回り尽くしたので、夕張を選んだのは単に順番から来たようなものだが、E.P.E.の例会はいつも幸運に恵まれている。到着した午後だけが降雪と濃霧に蔽われていた。ホテルでは多目的ホールで何やら表彰式が開かれていた。聞けば『Over30GSL』という30歳以上のシニアを対象とした競技会の表彰式であった。競技は10歳間隔に最高70歳以上の年令別競技会だったようで、どんな様子だったのか、見学できなかったのは残念である。しかし聞くだけで何か胸中騒ぐ思いである。そうか70歳以上の枠までなのか、競技スキーなど無縁の身であっても、見知らぬ同年輩の活躍は心強いからである。翌朝、競技コースにポールセッティングが残されていた。周囲はネットで覆われているが、どうやら途中で立ち止まらないという条件で開放されているらしい。面白そう、全長700M、一気に全力で滑るとゴールではゼイゼイ喘ぐが「やったぞ！」という達成感が味わえる。なかに老競技者が2人いた、さすがにポール捌きが鮮やかだ。でもどうにも手に負えない速さではない(なんと馬鹿を云う)。それに比べて、その翌日の夕刻、ナイターの照明が点灯し始めた頃、何処からともなく現れた子供たちの一団が、ポールラインにそって軽くウォーミングアップを始めた。下は小学1~2年生から上は5~6年生まで、両脚をグッと開いたクラウティングスタイルを微動だにせず、そのまま直滑降で疾風のごとくかっ飛ばしていく。小さな体に大きなヘルメット、黄色いヤッケは背丈を越して脛まで覆う、ちびっ子ギャングさながらである。凄い、感動ものである。放課後のナイター練習を始める地元スキーチームのちびっ子達である。将来このちびっ子からオリンピック選手が出るかもしれない。明るい未来をみたようで、実に素晴らしかった。</p> <p>ところで、夕張市といえば市そのものが財政破綻した事で知られている。このマウントレースイスキー場も経営不振の松下興産から夕張市が分不相応な高価で購入し、さらに加森グループに破格値で転売された。これが破綻の一旦を成したと言われている。傍目からみれば、そんな簡単な算式がなぜ分からぬかと思うが、元をただせば、炭鉱夕張の崩壊がその根源にある。リゾート経営の不振などは弱り目に祟り目のたぐいであろう。全盛期の十分の一に縮小された財政は、市民一人当たり180万の負債を抱えたことになるという。大きな時代のうねりである。どうにかならぬものかと思うが黙って見守るしかない。せめてこの街では財布のひもを緩めましょう、そう思うのである。さて、我がE.P.E.クラブのスキーカーニバルも来年は10回目を迎える。まずは一区切りとしたいところだが、本当の正念場はこれからである。今回も2人の新顔が加わった。68歳と64歳である。40年振りのスキー再開とのことだが、その意気や軒昂である。お誘いしたかぎり、一同と足並みが揃うまで責任がある。そんなことを云って果ては果てしなく続くが、そうだ、果てしなく生き様を晒そうと開き直るのも悪くはない。今年はまだ70歳を過ぎた某さんが下半身の障害を克服して、新たに障害者スキーに挑戦した。凄い事だと思、心から敬服した。人には様々な生き様がある。老境の今、やっとそんな事が解かったのかと笑われそうだが、教訓は身近にあるとしみじみと思う。今年も2度のスキー例会が無事完了した。雄叫びを上げよう。山よ、雪よ、オウ〜シーハイル！ 記:紀伊栞本</p>
<p>連番</p>	<p>382 例会No.一般228 内容 大和・竜門ヶ岳 実施年月日 2011/3/6 担当者 大西(恒)、長瀬</p>
<p>参加者</p>	<p>大西恒雄、長瀬茂正、岸田暎子、谷村洋子、田中智子、神阪洋子、柴田弘子、安岡和子、小椋美佐、宮平良雄、青木義雄、奥中種雄、安部泰子</p> <p style="text-align: right;">参加者数 13</p>
<p>担当者コメント</p>	<p>この龍門ヶ岳への例会は、2009年3月1日に一度実施しています(一般例会No. 151)。その時と今回はまったく逆のコース採りであります。その時の参加者が、私を含めて7名参加しています(前回は24名)。コースが違えば全くイメージが異なり所々で一度来たことがあると思ひ出す程度で新鮮な感じで歩きました。日曜日はバス便がない。その分タクシー利用で吉野山口神社の先まで入れアプローチが短縮できる。溪流沿いの林道をしばらく行くと左に二段の龍門の滝、さらに進むと久米の仙人たちが修行したといわれる龍門寺跡の名残り(何もない)を見ることが出来る。道は杉植林の中を行くようになり、うっかりすると違う所に誘われて道を見失う。我々も途中で曲がり角を直進して大きな滝の下に出て道を見失った。少し引き返して山道に出ることができた。山道をたどり滝の落ち口を渡ると谷沿いの道を進むようになる。小堰堤を過ぎると二俣に出る。右俣の左の尾根を急登、ただ真っ直ぐに急登し続け傾斜が緩むと龍門ヶ岳山頂にたどり着く。山頂には岳の明神(高皇産靈(たけみむすびの)神(かみ))を祀る祠と一等三角点がある。そこから北に急坂を下ると、鉄塔の立つ明るい尾根に出る。見晴らしが開けて西に金剛・葛城、正面のかなたに熊ヶ岳、経ヶ塚山を見ることが出来る。道はアップダウンを繰り返して坦々(体に応えるような大きな上り、下りがないという意味)と続く。三津峠、細峠の分岐を過ぎ、歩き疲れる頃にやっとな「女坂伝承地」と書かれた石碑のある大峠に出る。縦走路はまだ北に続くが、ここから左に下る。針道集落を通過して不動滝バス停にたどり着きこの行程を終わる。ここにはバス便(土・日ダイヤ)が有った。バスで桜井駅へ。 記:大西(恒)</p>
<p>連番</p>	<p>383 例会No.一般229 内容 京都・比叡山 実施年月日 2011/3/13 担当者 大西(征)、秋田</p>
<p>参加者</p>	<p>大西征四郎、秋田文雄、仙谷経一郎、安本昭久、奥中種雄、安本嘉代、寺島直子、寄川都美子、岸田暎子、谷村洋子、小椋美佐、</p> <p style="text-align: right;">参加者数 13</p>
<p>担当者コメント</p>	<p>鷲森神社で挨拶と山用の身支度をして雲母坂に向かう。登り初めから急登となる、長年の雨水によってえぐられたV字型の谷の様な道を歩く。見通しもきかない絨毯を敷き詰めた道、落葉も何時かは流されるのだろう。しばらく歩くと平坦な尾根となり、音羽川のせせらぎが心地良く癒してくれる。ロープウェイ索道線の下から比叡山山頂まで、所々に残雪と氷結があり、今冬最後になるであろう雪を楽しんだ。休業中のお店の座席を使わせて頂き、気持ちよい太陽の下で昼食をとる。少し道を引き返し根本中堂に向かう。神社仏閣にお参りした時家族の安全をお願いするが、今回は東北関東大震災に遭遇された方々の安全もお願いし、「一隅を照らす会館」で一休みをさせて頂いた。坂本までは計画を変更して無道寺坂を下ることにした。風変わりな山門の玉照院を後にして、金網の柵を開き回峰行者の本拠地無動寺谷に入る。竹やぶの道、急坂や軽いアップダウンを繰り返して「紀貫之の墳墓」の石道標で小休止。暫く歩くと信仰の息づく雰囲気を感じる急な石段の不動坂を下る。漸くJR比叡山坂本駅に到着、晴天にも恵まれ無事下山できた事を感謝して、空席ある新快速に乗り乗ってきた。 記:大西(征)</p>
<p>連番</p>	<p>384 例会No.OP147 内容 奥越・平家岳 実施年月日 2011/3/20~21 担当者 板谷、長瀬</p>
<p>参加者</p>	<p>板谷佳史、長瀬茂正、安部泰子、柴田弘子、小椋美佐、安岡和子、村浪義光、本郷善之助、宮平良雄</p> <p style="text-align: right;">参加者数 9</p>

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

担当者コメント	除雪は国道までで、そこから先は歩きになるのはほぼ確実とわかっていたのに深く検討することもなく実行してしまった結果、雨と腐った雪に拒まれたにせよ、一日目は予定の泊地よりはるか下部の夏の登山口でテント泊となってしまった。そこからのピストンではこの積雪が相手では山頂まで届くはずもなく、泊地予定の小平家までも届かずに敗退となってしまった。ここ数年この時期に奥越・白山周辺の積雪期登山を重ね、毎回きわどくも天候に恵まれて成功が重なった。今回もと、あなどって取り組んだツケが回ってきたのではないかと反省しきりの帰り道でした。やはり、荒島岳や経ガ岳のような人気のある山とは違い、他の入山者は皆無、しかも国道を離れると登山口に至る道路には人家の無い山城なので、除雪もされていない。そのような条件を充分考慮することなく計画してしまったことが敗退の理由だと思います。来年の同時期の雪山登山をどこにするか？悩ましいですが再挑戦も含めて一年間考えていきたいと思っています。 記:板谷								
連番	385	例会No.	一般230	内容	播州・笠形山	実施年月日	2011/3/20	担当者	三原、大西(征)
参加者	三原秀元、大西征四郎、奥中種雄、仙谷経一郎、近藤さとみ							参加者数	5
担当者コメント	大震災の後で、原発での未だ処理の終わってない段階での山行は、ちょっと気が引ける思いであるが決行することとする。姫路から播但線の福崎駅で下車。タクシーで瀬加登山口の大鳥居のところまで入る。薄暗い杉林の中の道を行く1時間で立派な笠形神社に着く。神社は県の重要文化財になっているほどで1400年の歴史と彫刻の立派さは、こんな山中の神社とは思えないほどの趣があり往時が偲ばれる。ここからは登山道らしくなり丸太の階段状の急な道を行く。笠形山の南のピーク笠の丸に到着する。東屋もあるのでここで昼食とする。いつもと違い親父パーティーのせいかな静かなひと時である。雨雲も近づいて来そうなので早々に目前の笠形山へと急ぐ。一等三角点のあるピークに到着。晴れていれば瀬戸内の小島や明石大橋北の方には氷ノ山あたりまで見渡せるのだが、今日は残念！下山はグリーンエコー笠形というレジャー施設のある方へ下りバスにて播但線の新野駅へ向かう。 記:三原								
連番	386	例会No.	一般231	内容	ベーシック登山No. 5 天王山(270m)、十方山(304m)	実施年月日	2011/3/26	担当者	秋田、紀伊壱本、野原
参加者	秋田文雄、紀伊壱本節雄、野原勇、宮平由紀子、青木義雄、岸田暎子、寄川都美子、杉本栄子、和田良次、和田敬子、三原博子、三原知未、上原進一、和田都子、藤田喜久江、堀木宣夫、寺島直子、岩崎憲代、新里トヨ、保木道代、翁長和幸、翁長あい子、津川洋子							参加者数	23
担当者コメント	今回の山行は歴史と春の息吹を感じる癒やされた山行の計画でした。JR山崎駅下車、天気は曇り肌寒く参加者が多いので取りあえずJRの線路沿いに東進する。踏切を渡ると天王山登山口石塔がある。宝積寺へ急な参道ひと登りで宝積寺だ。山門に重要文化財の金剛力士が出迎えてくれる。ここで登山準備と打ち合わせ、自己紹介を済ませ、本堂の横から山道に入る。広い坂道を少し登ると青木葉谷広場にでる。展望のよい、壮大な淀川を見渡せる。これより「秀吉の道」の絵図にそって登ると旗立松の展望台に着く。山崎合戦の巻絵図「秀吉の道」日本画家である岩井弘さんの合戦の様子が迫力あるタッチで表現されている。説明文は作家の堺屋太一さん、分かり易い魅力あふれる解説文です。勝敗の分かれ目の時、ここが天下分け目の天王山と云う由来になっている。鳥居をくぐり、しばらく行くと十七烈士の墓がある。禁門の変御所蛤門で武力衝突し幕府軍敗れこの地で一戦交えた後、真木和泉守と同士一六名と割腹自刃する。道は平坦になり酒解神社(山崎山「天王山となり」山も天王山と呼ばれるようになった。天王山頂上は広く昼食に早い皆な輪になり食事を済ませます。急遽歴史に詳しい代表に「秀吉の道」山崎合戦の秀吉の陣また光秀の陣その前後の動きまた二人の心理など歴史に忠実に興味深く楽しいお話でした。天王山から十方山へ竹林の静かな道を通り雑木林なる。この辺で天気は一時的に風と雪になり非常に寒く十方山に着く頃天気になる。頂上には木の方位板がある(国内や国外の山の方向を指している)頂上は三等三角点(304.4m)下山は立派な竹林の静かな道。こんな都会の近くに有るとは思えない。ここを抜けると景色は一転して展望は開け京都方面天王山トンネルの上に出る舗装道を下ると、水無瀬の滝は20mの美しい滝です。雨も降りだし下山する。JR山崎駅に(14:30)着く。今回の山行は前半はのんびりと歴史と景色を楽しみ後半は竹林の爽やかな物静かさに癒やされ、最後に美しい滝コースは短い都会に近く変化があり自然が残る素晴らしい山です。今日は天気も晴れ、曇り、雪、雨と一日変化に富んだ日でしたが心に残る楽しい山行でした。 記:秋田								
連番	387	例会No.	一般232	内容	丹波・八ヶ尾山	実施年月日	2011/4/3	担当者	大西(征)、板谷
参加者	大西征四郎、板谷佳史、田中智子、小椋美佐、寺島直子、保木道代、安岡和子、杉本栄子、仙谷経一郎、神阪洋子、岸田暎子、黒澤百合子、安本嘉代							参加者数	13
担当者コメント	”青い空、豊かな水、広がる緑”をアピールしている篠山市の笹見四十八滝森林公園にタクシーを降りた。身支度して四十八滝周回コースを登る。裸木の中小石が多いゴロゴロ道を歩く。周回コースを外れると最近の踏み跡が見当たらない。笹と小木混在中をカラーテープを頼りに必死に地図を読みながら歩く。コルの中の木に手製の八ヶ尾山への標識と縦走路を見つけ安心して中休止する。ここからは踏み跡のある、見通しの良い雑木林の中を、時には落穂を踏みしめながらひたすら歩く。無口な男性に比べ、女性軍団の話し声が又賑やかになってきた。やがて岩稜帯が続きその隙間に育ったような、ヒカゲツツジの群生が可愛い蕾を付けていた。タクシーの運転手「今、里では梅が満開で、桜の開花宣言は大分先です」の話しの通り例会概要の？を取り去る山行と成った。樹木の合間に見える麓の藤坂の町並木も美しい。岩稜帯と小さなピークを幾つか越えて、周囲360度見晴らしの良い八ヶ尾山に着いた。頂上直下の風を遮る所で大休止をとった。下山路南尾根はよく整備されており、東尾根も頂上からそのように見えた。三嶽修験者が拝した木造大日如来坐像が安置され、推定樹齢250~300年の小原の大銀杏もある大日堂でタクシーを待ち快速電車で帰阪した。 記:大西(征)								
連番	388	例会No.	一般233	内容	滝畑の無名峰と七望流蕎麦道場	実施年月日	2011/4/9	担当者	紀伊壱本、田中(智) ゲスト指南:永井文雄
参加者	紀伊壱本節雄、田中智子、青木義雄、本郷善之助、村本俊弘、秋田文雄、磯辺秀雄、三原秀元、畑山禮子、仙谷経一郎、安部泰子、安岡和子、真下好雄、神阪洋子、柴田弘子、柴田友宏、徳平忠久、樺田克彦、和田敬子、横内まみね、津川洋子、山田春雄、山田賀子、黒澤百合子、寄川都美子、山下登志子、達健一、達幸子、安本嘉代、吉田伸寛、上原進一、杉本栄子、和田都子、奥中種雄、三原博子、三原知未、川下淳子、小椋勝久、小椋美佐、西村晶、西村靖晃、泉本依里、大西征四郎、紀伊壱本博美							参加者数	45



# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

<p>担当者コメント</p>	<p>昨夜来の雨も集合場所の河内長野ではしっかり止んでいた。今日の企画は滝畑ダムの左岸の尾根をボデ峠からダム下まで、できれば金剛寺まで下って、蕎麦道場まで直行する目論みであった。しかし先々週に下見したところ、これが意外にきびしく短時間では到底こなせないことがわかった。それに参加者は40名を超えたという、もしか遅延して、あとに続くプラスアルファ蕎麦道場への期待を裏切ることが許されない。山が大事か、蕎麦が大事か、それは問うまでもない。ダム右岸の権現山に登ることにした。夕月橋から加賀田林道の梨の木トンネルを抜け、そこから梨の木峠に出る。40数名が一行に歩むとさすがに長い。先頭の動きと最後尾の動きは、まさに長蛇の如である。トンネルの上は植林帯であったが、やがて、雑木林の小さな細い尾根を進むようになる。気がつくともわりは濃い霧につつまれていた。里山の雰囲気は満点である。眺望は全く無いが、それがかえって深山幽谷?の趣さえ感じられて心地よい。権現山の山頂付近は、裸の岩頭が点々と現れている。猿の前栽と地図にあるが、誰が名付けたのか猿が戯れるには丁度よい岩場だ。また、ここを権現山城跡と書く地図もある。東に旗尾山、近くに旗倉山と続き、南には猿子城山と並ぶと、いずれも顕著な山容であることから、その役割は明らかである。少なくともこの権現山は、狼煙(のろし)台以外になんの戦略的な意味も無いだろう。が、いま視界零のなかでふと思うことは、あの時代に、ここに山城在りと表明する事による戦術的価値、戦術的意味が大いにあったのではないかと、漠然とした思いを巡らせてみた。案外これは当を得た答えかもしれない。昼には少し早いですが、蕎麦向きの空腹を調整するためここで昼食とした。空は何時の間にか傘を出したくなるような霧雨に変わっていた。晴れた眺望を待ち望んでいたが、無いものねだりは無駄である。そうなれば、ダムサイド14:20のバスに乗る予定を13:27に変更した。</p> <p>下山路は権現山の南のコルから、踏み跡をたどって西に下り、小さな谷をひとつ渡って最短距離で滝畑レイクパークに出た。公園は2年前から既に休園閉鎖されている。「なんだ、ここですか?」と、かつて子供連れで遊びに来たことのある人は口々に言う。そういえば、このダムの建設が始まったのは40年前、昭和48年である。白州正子著「かくれ里をいく」はその少し前の滝畑村落の孤高の姿をよく捉えていた。そのまだ昔、蕎麦道場のある天野山金剛寺はこの滝畑を支配した荘園の主であった。そんなことから、古くは南北朝時代、近くは小田原合戦で敗れた北條氏直が隠れ棲むなど、この地と貴人とのかわりが多い。いまま滝畑では気品漂う人をよくみかけるといふ。だが申し訳ないが、我が仲間達はそんな想いとは裏腹に、調整済みの空腹をグウとならし、ただらひたすら先を歩むのである。 記:紀伊壱本</p> <p>女人高野金剛寺の一角に七望流蕎麦道場がありました。その道場の指南役永井文雄さんの蕎麦打ちを見学し、あわせて賞味させて頂くイベントが待っていました。今回で2度目のお世話になりますが、前回(2年前)があまりにも好評であった為、アンコールした企画に45名ものメンバーが集まり、道場の方々を驚かして仕舞いました。まずは、七望流会長のご挨拶と説明を頂き、永井指南役の蕎麦打ちに入りました。中力粉2、蕎麦粉8の二八蕎麦で、鮮やかな手捌きのうちに、一キロの粉が厚さ1、2ミリの板にみるみる伸ばされて行きます、何度か折たたんだあと、1、2ミリの巾に刻み込まれる手元はとてもリズムカルでした。桜満開の景色に圧倒される二階の大広間に案内され、いよいよ待望の賞味が始まりました。薫り高く茹で上がった蕎麦に刻みねぎ、辛味大根おろし、わさび、天かすなど、薬味を自由にかからませ、ツルツル腰のある蕎麦が心地よく喉を通り、美味しい!美味しい!の歓声があちこちのテーブルから上がります。次から次と運ばれてくる大に一斉にのびる箸、あっという間に空になる有様はお見事でした。道場では45名の私たちに200人前のご用意を下さいました。そのうえ、打ちたての生蕎麦のお土産まで頂戴し心行くまで堪能させて頂きました。永井文雄さん(泉州山岳会)はかつて日本を代表するクライマーとして活躍されたそうで、今は蕎麦打ち一筋、いや登山に継ぐ二筋目の道を極めようと(代表談)邁進されておられます。ますますのご活躍をお祈りいたしますとともに、七望流会長をはじめ、何もかもお世話を下さいました道場の皆様に心からお礼申しあげます。 記:田中(智)</p>
<p>連番</p>	<p>389 例会No. 一般234 内容 尼ヶ岳~大洞山 実施年月日 2011/4/17 担当者 翁長、三原</p>
<p>参加者</p>	<p>翁長和幸、三原秀元、仙谷経一郎、安本昭久、安本嘉代、寺島直子、宮平良雄、本郷善之助、岩本和行、保木道代、青木義雄、山下登志子、寄川都美子、杉本栄子 参加者数 14</p>
<p>担当者コメント</p>	<p>尼ヶ岳や大洞山の周辺の山々は、なだらかな広がりすそ野を持ち、いかにも牧歌的でのんびりとした雰囲気があります。頂上からふもとを見ていると「日本むかし話」に出てくるような山と村の風景で、人の気持ちをホッとさせてくれます。私にとっでは好ましい山々のひとつです。国の天然記念物に指定され、「日本の桜名所百選」にも選ばれた三多気の桜見物を、おまけに付けた山行でした。ちょうどこの日は桜祭りで、写真にあるような見事な桜がありました。16時、杉平のバス停に予約したタクシーに乗り名張に戻りました。 記:翁長</p>
<p>連番</p>	<p>390 例会No. OP148 内容 鈴鹿越え千草街道 実施年月日 2011/4/24 担当者 紀伊壱本、長瀬、小椋(勝)</p>
<p>参加者</p>	<p>紀伊壱本節雄、長瀬茂正、小椋勝久、西田保、柴田弘子、田中智子、櫻田克彦、神阪洋子、保木道代、奥中種雄、本郷善之助、大西征四郎、小椋美佐、紀伊壱本博美 参加者数 14</p>

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

担当者 コメント	<p>千草街道とは古くは伊勢と近江を結ぶ鈴鹿越えの街道でした。三重県千草集落の常夜灯を基点として、西に朝明溪谷から根の平峠、愛知川の上流を渉り千草峠を越え、甲津畑の集落を抜けて滋賀県日野に至る長い街道であります。浅井長政ら信長包圍網から逃れた織田信長が京都から岐阜に帰る途中、杉谷善住坊に狙撃された街道としても有名です。今回は歴史探訪としてこの街道を検証しながら歩くのが目的の例会でしたが、大阪から日野りのため目的地までの移動時間(交通機関)、歩く距離、所要時間も長丁場となるハードな例会となりました。前日の雨も上がり、山行には絶好の天候かと思いがら朝明溪谷沿いの山道を歩き始めました。ところが、根の平峠に着いた頃には雲行きが怪しくなり、本来ならばこの峠から四日市の町並みが見えるはずがあいにくの空模様となる。根の平峠を過ぎ水晶谷を渉る頃には空はさらにどんよりと、見上げる谷間には所々に雪も残り、まるで冬の名残りを思わすような風景に、ただ黙って寒さをこらえつつ昼食をとりました。渡渉になれば素足も覚悟していたクイ谷の出会いでしたが、これも無事に通過、本流の最上部にある御池釜山跡に到着。明治末期まで続いた銀銅鉱山跡で、当時は300人ほどの人たちが働き尋常小学校もあったとか、当時の賑わいを偲びつつさらに沢伝いに進みます。残雪を踏みしめ杉峠直下のフィックスロープを頼りに崩れたガレ場を登る頃、突然、雹が降り始め杉峠に着いたころには吹雪ならぬ吹雹となる。眺望をたしかめるどころではない。早々と杉峠を立ち去り、滋賀県側の避難小屋で休憩が取れて、ほっとしたほどの天候であった。あとは滋賀県側を渋川沿いに下ることになる。蓮如上人が一夜の宿とした旧跡で休んだ後、コース最後の避難小屋で少し時間の余裕が読めたので、代表より信長狙撃事件の解説を聞いたりした。その狙撃の現場、杉谷善住坊の隠れ岩を通過し甲津畑登山口へ到着した頃、ようやく雨も止み晴れ間が望まれた。登山口から予約したタクシーの帰途、甲津畑の集落にある織田信長の馬を繋いだと云われる旧速水家の駒つなぎの松を見学し、八日市駅へと向いました。今回の山行は7時間の長丁場を覚悟しての計画でしたが、悪天候にもかかわらず予定より1時間近くも早く終わる事が出来ました。持ち時間の都合により本来の目的、街道の検証などあまりできませんでしたが、峠を越え行きかう先人たちの忍耐強さ、直向さなどを感じることができました。今回、交通手段が不十分な場所でしたが、名張在住のN先輩のご配慮には頭が下がる一方です。本当にありがとうございました。記:小椋(勝)</p>		
連番	391 例会No.一般235 内容 丹波・三郎ヶ岳	実施年月日 2011/5/3	担当者 三原、秋田
参加者	三原秀元、秋田文雄、青木義雄、仙谷経一郎、大西征四郎、堀木宣夫、岩本和行、寄川都美子、近藤さとみ、山下登志子、寺島直子、西村美幸、櫻田克彦、宮平由紀子、杉本栄子、松本明恵、小杉美代子		参加者数 17
担当者 コメント	<p>ゴールデンウィークの真っ只中、人、人、人で一杯の大坂駅を出発して、亀岡の奥の里に来るとさすがひっそりとして、他の登山者も人影もない登山口でタクシーを降る。地図上のルートより入山する。道は倒木などで荒れているが、急な尾根に取り付いてしまうと里に近い山のわりには、結構、自然林が保たれている。樹間越しに牛松山や地蔵山が見え隠れする。尾根に上がったところで小休止とする、その間に下山のため地図上には道はないがひょっとして歩けるかもしれない南尾根のルートの偵察を試みる。2つ3つピークを超えていく面白そうなルートなので、下りはこれでいこうと秋田リーダーと決める。まずは三郎ヶ岳を登頂する。今日は晴れ模様なのが大黄砂の影響で曇天状態で景色は何も見えなくちょっとがっかりです。しかしこの山不思議な山で頂上三角点は613.7mであるが、最高点が616mと明記されている。昼食後616mがはたして存在するのか探してみるが2.7mも高いような場所がこの付近には見当たらず、ピークハンターにとっては最高点は非常に気になるので何となく納得できない気持ちです。しかし女性軍はそれより山菜の女王といわれる「こしあぶら」が一杯ありその採集に夢中です。帰路は先ほど偵察したかすかなふみ跡程度の道を赤テープを探しながら地図とにらめっこで地図上のルートのある峠まで尾根に忠実に1時間かかって到着。後は広い峠道であるが、やはり人が余り入っていないので結構崩れたりして歩いて歩きにくい道を出雲大神宮へと下山する。最近是有名な山や便利のいい山には多くの人が押し寄せているがマイナーな山にはほとんど人が行かず、これ程登山者が増えているのに昔以上に静かで自然が保たれているようです。今日の三郎ヶ岳も公の道標は1本もなく個人が付けたものが少しあるだけでした。里山、藪山も自分でルートを見つけて登れば達成感も倍加すると思います。皆さんも常に探究心を持って山に登ってください。記:三原</p>		
連番	392 例会No.OP149 内容 銀杏峰	実施年月日 2011/5/7~8	担当者 本郷、大西(征)
参加者	本郷善之助、大西征四郎、神阪洋子、山下登志子、田中智子、柴田弘子、小椋美佐、寄川都美子、保木道代、寺島直子、杉本栄子、宮平良雄、奥中種雄、長瀬茂正、安本嘉代、村浪義光		参加者数 16
担当者 コメント	<p>4月下旬に地元大野市観光課に尋ねたところ、荒島岳に登った同僚の話では、シャクナゲ平で積雪は2m以上あるとのこと、大野市内より見える銀杏峰の山頂付近は真っ白で2~3mの積雪が予想されるとのことであった。予想以上の積雪に装備もアイゼン、ストック、スパッツ必携、全コースの6割以上を雪の上を歩くとの予想を全員に連絡する。連休前半の天気は良く後半の天気を心配しながら福井駅より勝山へ向かう。車中より法恩寺山、経ガ岳の残雪が多い。迎えの車で平泉寺荘へ。明日の晴天を願って全員で乾杯する。夜半には激しい雷雨があった。5時起床、6時30分出発、天気は少し青空もあって安心する。宝慶寺いこいの森キャンプ場は広く施設もあり立派なキャンプ場でもう一度来てみたいところだ。林道を少し歩いて登山道へ入る。雑木林の道を進むと急登が始まる。所々には松の巨木が有り、羽衣、見返り、仁王、老いの松と続く。左右の尾根には豊富な残雪があり、ブナ林の芽吹きは始まったばかりで登山道にはかれんな花が群落を作っている。後方が開けて大野平野が広がってきた。1150mの前山のピークに立つと山頂はすぐそこにある。しかし残雪多くキックステップで慎重に進む。やがて笹原の中を進むようになり部子山からの稜線に出ると緩やかな道になる。この附近より残雪の中に座禅草が多く見られる。頂上には祠が祭られ、360度の展望が広がっている。少し残念だが雲が広がって、白山や赤兎は見えない。頂上には人が多いので少し先の草地で弁当をひろげる。部子山はすぐ目の前だ。もう少し展望を楽しみたいところだが下山に時間が掛るため来た道に戻って登山口へと下る。最初の予定通り2時に迎えの車が来て、JR越美北線大野駅に向かう。途中水田の畦道には芝桜が植えられピンクや白の花が美しい。今回の山行は花も多く残雪も豊富、しかも名張のNさんの手摘み山菜のおみやげもあり皆さん満足の山行でした。記:本郷</p>		

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

連番	393	例会No.	一般236	内容	ベーシック登山No. 6 六甲山・荒地山	実施年月日	2011/5/14	担当者	秋田、紀伊栞本			
参加者	秋田文雄、紀伊栞本節雄、大西幸孝、堀木宣夫、堀木優子、宮平由紀子、田中智子、保木道代、仙谷経一郎、野口秀也、上原進一、和田都子、藤田喜久江、寄川都美子、翁長和幸、樺田克彦、津川洋子、杉本栄子、真下好雄、谷村洋子								参加者数	20		
担当者コメント	今日は快晴に恵まれ芦屋川駅に混雑を避けて参加人数を確認して城山にロックガーデンのハイキングコース途中、荒地山、城山分岐の標識に沿って、五月晴と心地良い涼しい風を肌を感じ、ジグザグの道を難なく城山に着く。ここで自己紹介と打ち合わせして木の茂み多い尾根道を岩梯子に少し緊張感とスリルを味わって、岩小屋の上のテラスに(昔この岩小屋で寝てテラスで芦屋の夜景眺め朝から岩登りに没頭した日々を思い出させる古い錆びたボルトが時代の流れと懐かしい青春の日々を思い出させる岩小屋でした。)ここでのんびりと昼食をとり荒地山から横池に。メインのハイキングコースを少し外れているだけで六甲山にこんな神秘的な静かな池(横池は雄と雌が有る)近くに行けば一度寄って観てください。横池から細い迷いやすい山道を打越峠へ、これより下り森林管理道(水平道)を横切り静かな山道を下ると、山の神を通り八幡谷に谷に入り、堰堤を越えると厳かな雰囲気のある行場の二筋の滝(八幡滝)が見られる。山道は狭い切れ込んだ谷を脚下に見て少し下ると登山道の入り口に出る。ここから車道で岡本八幡神社を過ぎると阪急岡本駅は直ぐだ。今日の山行は五月晴れに恵まれ表六甲山は人が多く賑やかなイメージしかないが今回の山行でまだまだ六甲山にも静かで雰囲気の良い所が見られたことは今回の大きな収穫でした。 記:秋田											
連番	394	例会No.	一般237	内容	丹波・雨石山～櫃ヶ嶽	実施年月日	2011/5/22	担当者	板谷、本郷			
参加者	板谷佳史、本郷善之助、仙谷経一郎、保木道代、杉本栄子、神阪洋子、寺島直子、小椋美佐、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子、谷村洋子								参加者数	12		
担当者コメント	篠山口駅に降り立つまでは、どんよりとしてはいるがまだ雨は降っていなかった。予約しておいたタクシーが走り出したとたん激しい風になってくる。目指す登山口、小原自然公園までの約30分間車のワイパーが間に合わないほどの豪雨である。「これで登るのか?」とだれの頭にも浮かんだことだろうが、タクシーは帰ってしまったし、このまま中止して帰るという訳にもいかないだろう。公園とは名ばかりで雨を避ける軒下もない林道上に降ろされて、ともかく雨具を着け、30分ほど登った毘沙門洞なら雨を避けられると期待して早々に出発する。毘沙門洞のりっぱな洞窟で雨を避けやっと思いつく。こうなるとこのまま引き返す訳にもいかず、幸い雨も弱まったので雨石山まで登って様子を見ることにする。毘沙門山に立つ頃から風が強くなり雨は止む気配。前線通過し終わったと見当をつけ、更に雨石山へ向かう。稜線上は北の風が強く寒いくらい、雨は弱まってきたが、吹き飛ばされたはずが雨と同様に吹きかかる。毘沙門山から雨石山にかけての岩稜はヒカゲツツジのトンネルとなっていて、写真を撮る余裕は無かったがわずかに咲き残った花も見られる。雨石山に到着する頃にはこのまま回復しそうな天候となって、予定通りのコースで続行することにする。雨石山と櫃ヶ嶽との最低鞍部で昼食の後、今日の最後のピーク櫃ヶ嶽を目指す。途中見つけた山椒の群落に手を伸ばす余裕も出てきて、やがて櫃ヶ嶽に立つ頃には陽射しも覗くくらい天候となった。今日の天候回復と引き返さなくて良かった幸運に思いを巡らしながらすっかり晴れて緑鮮やかな田圃道を宮代に下山してタクシーを待った。 記:板谷											
連番	395	例会No.	一般238	内容	音羽山	実施年月日	2011/5/29	担当者	翁長、松本			
参加者											参加者数	
担当者コメント	荒天中止											
連番	396	例会No.	一般239	内容	大岩ヶ岳	実施年月日	2011/6/12	担当者	大西(征)			
参加者	大西征四郎、奥中種雄、宮平由紀子、長瀬茂正、田中智子、津川洋子、小椋美佐、柴田弘子、保木道代、近藤さとみ、寺島直子、寄川都美子、杉本栄子、三原秀元、安本昭久、安本嘉代、岸田暎子、仙谷経一郎								参加者数	18		
担当者コメント	車窓から不動岩を見て、懐かしむ間も無く道場駅に降りる。2つのパーティが出発準備をしていた。身支度をし多人数のパーティを避けるべく出発をした。昔を懐かしむように西面の不動岩を眺めながら舗装道を歩く。前回(2004年4月4日)は桜の季節であり千苺貯水場が通り抜けができたが、今回は貯水場のフェンス沿いに進む。波豆川は昨夜の雨で水量も多く多少濁っているようだ。周りの新緑が一際新鮮である。昭和初期に完成した石積みの堰堤と高さ42m、17の水門から放出する水流に圧倒され我を忘れる。登山口から雨水で洗浄された石積みの急坂を少し登る。大岩ヶ岳に登るルートが色々あり、湖面際を通るルートが脳裏にあり、進むにつれ踏み跡が薄くなり引き返した、下見の必要性を痛感した。水源池が見下ろせるところで休憩、予想的中道場駅で見た三十数名のパーティに先を越される。池周遊コースから大岩ヶ岳に向かう、分岐からは見晴らしの良い、松の木が混じる道を行くが先のパーティの後陣をとることになった。岩場を乗り越えようと大岩ヶ岳に到着、だが先行パーティは昼食中、この先広い所は無いと聞く時刻は11時過ぎ少し早い我々も此処で大休止をする。頂上からの展望は素晴らしく、千苺水源池湖面やなだらかな山、尖った山容が目に入る。丸山を目指して大岩ヶ岳を後にする。里山特有の色々なコースあり、又標識が少なく丸山の頂上に立つ事が出来なかった、後で分岐があったと聞く。頭に無かった丸山湿原に出合った、養生中で迂回ルートが設けられたり柵が施されていた。「ハッチョウトンボ」「ヒメタイコウチ」等湿原に生息する生物も見られるとのこと。東山橋に到着するが雨が本降りとなり傘を差して道場駅に向う。東面の不動岩を再び見る。駅では泉州会現役のメンバーに偶然出会う。雨に濡れた不動岩を眺めながら帰阪した。 記:大西(征)											
連番	397	例会No.	一般240	内容	リトル比良・岩阿沙利山	実施年月日	2011/6/19	担当者	大西(恒)、小椋(勝)			
参加者	大西恒雄、小椋勝久、仙谷経一郎、杉本栄子、宮平由紀子、安岡和子、小椋美佐、柴田弘子、田中智子、大西征四郎、奥中種雄、村浪義光								参加者数	12		

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

担当者コメント	比良といえば冬山のトレーニングの山として、又沢歩きの山としてインプットされていてよく通った割には表面的にしか理解していない。北に延びるリトル比良というどこか優しげな部分についてはほとんど知らなかった。JR北小松の駅から山側に伸びる車道を進み、げんき村、山岳センターを越え車道が終わると谷沿いに登るようになり涼峠に着く。尚も谷間の道を進み、湿地帯を過ぎると十字路となった寒風峠に着く。峠から縦走路を釈迦ヶ岳方面と反対の北東方向に進み滝山、カネガ峰(標識あり)、さらに進むと鶴川越え(林道が縦走路を横断している)、林道を渡って縦走路にもぐりこむと急登が続き岩阿沙利山に着く。山頂から更に進んで大岩の点在する中を行くと鳥越峰の分岐、さらにオーム岩(大きな岩)、更に風化したジグザグの砂利道を下り、岩のピークに出る。ピークは岳山。山頂の少し下に石室があり、石仏が祀られている。山頂から風化したガレ場を通りそのまま下ると岳観音堂跡に降立つ。更に参道といわれないと判らない道を下り続けると大炊神社の境内に出て音羽の集落に着く。そのまま高島の駅まで歩く。比良の主要な峰々と比べると標高は低い、ハイキングを楽しむのには恰好の山でありました。 記:大西(恒)								
連番	398	例会No.	OP150	内容	滝畑・上山谷廻行	実施年月日	2011/6/26	担当者	板谷、安部
参加者	板谷佳史、安部泰子、寺島直子、小椋美佐、安岡和子、本郷善之助、保木道代、黒澤百合子、杉本栄子、近藤さとみ、古松育代、駒井万生子、川守田康行							参加者数	13
担当者コメント	滝畑ダム行きバスは地元の利用者や行楽客で超満員、うんざりする頃、やっとバスを降りる。しかし石川の上山谷出合に降り立てばキャンプ場の喧騒をよそに我々だけの静かな谷歩きが開始された。今週末になって梅雨明け?と見紛うほどの夏が続いており、今日も今年最初の沢登りにふさわしい日照りだ。初心者もまじえてのことなので、慎重に悪場をこなしていく。初参加からシャワークライムの洗礼を受け少々面食らったのか?何度も飛び込み遊泳をされる方、シャワークライムの体勢のまま長時間登りあぐねる方などもある。行程は遅々としてはかどらないが安全を期して何度もザイルを出す。悪場をつなぐ小滝やナメ状の部分は各自が自由に歩いて楽しんでもらえたと思う。この谷の核心部がほぼ終わった地点ですすでに14時を過ぎてしまった。これから榎尾山に移動したところで予定した訓練の時間はとても取れない・・・ということで今回は割愛して、元の滝畑ダムへ作業道を下山することにした。あいにくダムのバス停で1時間以上の発車待ちとなってしまったが、夏本番を思わせる陽射しの中ではあるが、のんびりとした時間を過ごした。初心者には少し難しい通過箇所もありましたが、初回で懲りたという人は居ないようで、次回の湖南の沢を楽しみに解散となったのは幸いでした。今回、割愛した登岩訓練(特に懸垂下降技術の復習)は次回からの沢登り例会の山行中に機会を見つけて実地を兼ね、実行したいと思います。 記:板谷								
連番	399	例会No.	OP151	内容	大峰・下辻山	実施年月日	2011/7/3	担当者	三原、翁長
参加者	三原秀元、翁長和幸、保木道代、小椋美佐、寺島直子、近藤さとみ、寄川都美子、杉本栄子、本郷善之助、板谷佳史							参加者数	10
担当者コメント	梅雨空の下、天気予報では午後にはわか雨といっているが、薄日さえさし一日中雨にも降られず、大峰の前衛の秘峰を満喫してきました。篠原集落のもう廃校になった小学校に勝手に駐車させてもらい、急な植林の道を登っていく。風もなく蒸し暑い、薄暗い道で、余り気分も冴えないが、しばらくがまんして行くと尾根道に合流する。この辺りより自然林に変わってくる。ブナやヒメシャラ、ナラの木等現われ、大峰特有の原生林の様相を帯びてくる。さわやかな涼風に今までの疲れも一掃してくれる。下辻山は大峰の主稜線から七面山を通り西へ15km程延びた尾根上にあり、本当に静かで樹林の山旅好みの人にはぴったりの山である。頂上直下には鉄製のヘリポートがあり、ここからの大峰の眺めは視界があれば最高だろうと思う。二等三角点の頂上を後に元の道を引き返す。いつの日か下辻山から七面山へ縦走すればもっともっと素晴らしい物が発見されるような気がする。 記:三原								
連番	400	例会No.	一般241	内容	ベーシック登山No. 7 焼杉山	実施年月日	2011/7/2	担当者	秋田、大西(恒)
参加者	秋田文雄、大西恒雄、青木義雄、岸田暎子、谷村洋子、仙谷経一郎、山本洋、寄川都美子、横内まみね、岡本佳久、福田直也、真下好雄、三原博子、藤田喜久江、上原進一、喜多田恵美子、磯辺秀雄、翁長和幸							参加者数	18
担当者コメント	連日の猛暑が続く例会となる。今日は曇り空、暑さも少し減りました。大原バス停より寂光院へ普段は観光客で賑う所、人も少なく静かな通り。寂光院にて自己紹介を済ませ、林道を登る。ここは大きな杉も多く川沿いなのでひんやりした空気で心地よい。焼杉山山頂へダイレクトコースの分岐で一般コースを谷筋の急な山道を登ると、金毘羅山、翠黛山から天ヶ岳への分岐の標識があり、ここで昼食とする。思ったよりも暑さもなくてこれより大原三山(金毘羅山・翠黛山・焼杉山)の焼杉山へ尾根筋を忠実に登ると一つのピークを越えて緩やかな山道を行くと焼杉山山頂。ここに三等三角点があり山頂は広いが展望はよくない。古知谷への下山は尾根筋を東方へ少し下ると急坂となり足元に注意してとんとんと下る途中京都北ライオンズクラブの標識を見ていくと展望が良くなり鉄塔に着く。ゴルフ場や国道(367)を又琵琶湖も少し見られる。鉄塔から下の二つの鉄塔を目印に送電線の切り開かれた道を行く。鉄塔を過ぎ、なお下ると、古知谷阿弥陀寺の境内に出る。大原まで旧鯖街道の舗装道を歩く予定だが、古知谷バス停より待つことなく直ぐ大原まで出るのでバスにて大原に。今回の山行で感じたことは季節的には暑く、花の時期でもなく景色や展望も少ない方が都会で汗をかくより、暑くても一歩踏み出し山で仲間とたわいのない会話やストレス解消にも山の良い空気を一パイ吸ってよい汗をかく、これこそ健康的で都会人には癒されるのでは無いのでしょうか。 記:								
連番	401	例会No.	OP152	内容	湖南・大戸川庄助ノ谷と狛坂谷廻	実施年月日	2011/7/10	担当者	板谷、西村
参加者	板谷佳史、西村晶、安部泰子、保木道代、安岡和子、小椋美佐、柴田弘子、黒澤百合子、寺島直子、杉本栄子、本郷善之助、宮平良雄、奥中種雄							参加者数	13
担当者コメント	金勝アルプス周辺のハイキング道をたどると至る所で露岩を見る。当然谷筋には更なる岩肌が・・・と沢登りファンが見逃すはずもなく、案内書に取り上げられている次第です。花崗岩なので明るく、登攀困難というほどのスケールではなく、初心者をまじえたパーティにはトレーニングがてらにもってこいの山域だと思います。とうことで、本年二回目の沢登り例会は湖南の谷で実施しました。梅雨明け早々の暑さを忘れる・・・というほどの納涼山行とはとても行きませんでした。これからも「大人の水遊び」として沢登り山行を続けたいと思います。 記:板谷								
連番	402	例会No.	一般242	内容	古光山	実施年月日	2011/7/17	担当者	大西(恒)、翁長

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

参加者	大西恒雄、翁長和幸、小椋美佐、寄川都美子、笠松マサエ、本郷善之助、堀木宣夫			参加者数	7				
担当者コメント	昔は、山に入ると言えばバスを利用するのが普通であったが、今ではバス便が無くなったりあっても本数が少なくなっていてタクシーを利用することが多くなった。今回もバスの時間が合わなかったのでタクシー利用となった。お陰で大峠へのアプローチ時間が1時間半短縮できた。古光山へは、集落から離れた大峠の「ふきあげ斎場」入り口すぐ左横から登り始める。緩やかな笹の茂る道もすぐにジグザグをきる急な登りとなり、登りきると尾根状になる。古光山には南(南峰)から五つのピークがあり一番端(北)にある。一番高い山ではない(三峰が最高峰、960m)らしいが、とにかく登ったり下ったりして古光山という標識で山頂を認識することになる。更に転げるような急な下りでフカタワ(峠)に着き、又急登して後古光山にたどり着く。下りは長い木の階段があり、無理やり足の位置を決められるようで疲れた足にはこたえる。階段が終われば長尾峠につく。ハイキングコース入り口という標識があるが、どう考えてもハイキング気分で登れる山ではない。手と足を使って急登、急下降の連なる、すぐくしんどい山であった。フィックスロープがやたらとあるハイキングコースはハイキングコースではないと思った。 記:大西(恒)								
連番	403	例会No.	一般243	内容	丹波・金山	実施年月日	2011/7/24	担当者	板谷、秋田
参加者	板谷佳史、秋田文雄、奥中種雄、安本昭久、安本嘉代、青木義雄、宮平良雄、寺島直子、寄川都美子、杉本栄子、山下登志子、小椋美佐			参加者数	12				
担当者コメント	過去の例会では篠山、丹波を巡る城跡の山として、すでに八上城址と黒井城址を訪れています。今回はその中間に位置する金山城址を計画しました。金山や追入、鐘ヶ坂など金属にまつわる伝承が伝わる山や地名であると同時に、織田信長の命を受けた明智光秀の丹波地方平定にまつわる歴史の舞台を巡る山旅でした。山中には地元が作ったらしい案内標識や説明板などがあるものの、朽ちかけたり傾きかけたものばかりで、ケバケバしい派手さは全く無く、忘れられた歴史の舞台にふさわしい雰囲気味わえた一日でした。 記:板谷								
連番	404	例会No.	OP153	内容	北海道・幌尻岳、羅臼岳	実施年月日	2011/7/24~30	担当者	紀伊栞本、大西(征)
参加者	紀伊栞本節雄、大西征四郎、本郷善之助、柴田弘子、笠松マサエ、田中智子、紀伊栞本博美			参加者数	7				
担当者コメント	24日 アプローチ・25日~26日 幌尻岳登山 実は昨年ほぼ同じメンバーで幌尻にやって来た。だが、入山前に荒天が続き糠平川の濁流を前に断念して引き返した。翌日、転戦した旭岳は快晴であったが、同じ日に幌尻山荘に向かった4人組の女性パーティーのうち1人と、単独の男性1人が渡渉による事故か、水死体で発見された。なんとも無惨で痛ましい事故であった。ところで今年は出発間際になって、幌尻山荘を管理する平取山岳会から糠平林道と幌尻林道の一般車両の乗り入れが禁止されたと連絡が入った。原因は昨年、同時期に糠平林道からゲートの合鍵を無断で偽造して入山したツアー団体が、あることか荒天のさなか疲労困憊の末、ツアー客全員のヘリによる救助を依頼したという事件があった。これは報道にも大きく取り上げられ、北海道でこれを聞いた私たちは、せめても客の命を守ろうとしたガイド2人の決断をよしと思ったのである。しかし合鍵を偽造していたとはあきれた話で、まして営利を目的したツアー会社のやる行為ではない。これを契機に、北海道森林管理局と平取町との協議調整が行われ、一般車両の乗り入れ禁止と平取町の管理するシャトルバスの運用が決められたというのである。幌尻岳が百名山であるが故に、沢歩きや渡渉の意味も解からぬまま入山する登山者が多いのも一因だという。当局の一般車両の規制による、ある程度の管理は止むを得ないと思うが、はたしてこの問題はそれで解決するだろうか。事実今年も7月19日に男性一人が流されて死亡したという。この平凡な沢で、である。私たちは慌ただしくこの規制に対応する処置をとったが、考えてみれば一登山者として何の特別な思慮もなく、それでもただ登りたい山に登るだけという自分の行為に、何となく釈然としない思いを抱きながら、この登山が始まった。 27日 移動日・28日 羅臼岳登山・29日 移動日・30日 帰路日 心地よい疲労感をもって日高から知床に向かう。知床は罫の宝庫だと言う。ヒグマの実物を見ようと昨年は移動日にサホロ罫牧場を訪問した。怖いもの見たさだが、やっぱりヒグマはでか過ぎると思った。木下小屋でヒグマ撃退スプレーを2本借り受ける。レンタル料は1日1000円、使用した場合は追加料金11000円。腰のベルトに取り付けられるホルダーサック付き、安心してすれば安いものだ。スプレーの中味は唐辛子の辛味成分「カプサイシン」を濃縮した液体、ヒグマが3~4mに接近してから噴射してはじめて有効そうだ。そこまで待って失神する人は使えない。さて肝心の用件、借り出し時に貰ったパンフレット『ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応』を帰宅後熟読した。さすが要点を得て抜群の内容、大事なところは、いよいよ最終最後の手段にこの撃退スプレーが残されているという結び、そしてそこに至る説得力です。過去にいろいろ「クマ対策」は読みましたが、最終手段が常にあいまいで、スッキリしません。『その先は神のみぞ知る』では納得できない方、連絡くださいばコピー差し上げます。 記:紀伊栞本								
連番	405	例会No.	一般244	内容	金剛山南尾根	実施年月日	2011/8/7	担当者	大西(恒)、秋田
参加者	大西恒雄、秋田文雄、笠松マサエ、大西征四郎、西村晶、奥中種雄、板谷佳史、吉田伸寛、福田直也、神阪洋子、宮平由紀子、山下登志子、寺島直子、安本昭久、安本嘉代、杉本栄子、寄川都美子、安岡和子、小椋美佐、横内まみね			参加者数	20				
担当者コメント	このルートは何度か来ているコースで、今回は猛暑に慣れることと夏山への体力と夏バテ、熱中症の予防などを目的に距離は長いが歩く事を主にした無理のないコースです。私なりにコース上の暑さの感じを記します。(天気は晴れと曇り無風、温度は高度計の温度計で測定)ロープウェイバス停33.5℃で猛暑の暑さ。登山道に入ると29.3℃、小川が流れ植林で少し涼しい、久留野峠30.7℃に登った。一気に汗が出る、中葛城山28.5℃、高谷山28.2℃、千早峠28.5℃、神福山29.5℃、行者杉29.5℃、杉尾峠29.4℃、西ノ行者28.2℃、これまでの稜線は、汗はかくが特別に暑くはない。西ノ行者から下り谷道に入ると急に蒸し暑く温度は30.2℃、山ノ神30.5℃、登山口31.1℃、紀見峠駅33.8℃。西ノ行者の下りより紀見峠駅まで皆さん夏の舗道を歩くあの暑さを思い出して下さい。今回参加された方は日頃山歩きや熱中症対策も心得ている人が大方でした。暑さについては色々な条件で異なるので参考になりませんが温度が5℃違えば体も楽になる。30℃になると汗も多く十分な水分が必要である。私が感じた体感と温度でした。どちらにしても猛暑の山行では、中高年は体温と体の変化に注意すること。周りの人も良く観察すること。これから夏から秋の登山に体力をつけて安全登山をしましょう。 記:秋田								
連番	406	例会No.	一般245	内容	比良・蓬萊山	実施年月日	2011/8/21	担当者	大西(征)、小椋(勝)
参加者	大西征四郎、小椋勝久、本郷善之助、小椋美佐、寄川都美子、寺島直子			参加者数	6				

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>今回山行につき2点のミスを犯した。1点は志賀駅到着が同じと早合点して当初8時30分発を8時45分発に大阪駅で参加者に伝えた。2点は新快速のまま湖西線に入り志賀駅をオーバーして近江舞子で引き返した、京都行きが待っていたので大きな事には至らなかったが、担当のミスを包容してくれるメンバーに感謝と責任を痛感した。この拙文を書きながら計画作成時数ヶ月前のメモを見る、多数の参加者を想定して京都駅での乗り換え時間の余裕を考慮して30分発とメモ書きが見つかった。前夜の予想で雨・雷と中止の判断もあったが決行することになったが、メモを見る余裕が無かったばかりに参加者にご心配をお掛けした。蓬莱山に登る一般的ルートであるキタダカ道、しかし大きな堰堤を高巻くまでの林道は草ぼうぼうで踏み跡少ない。堰堤以降は登山道らしくなってきた。天狗杉に出会う標識も樹齢の記載も無い、各々思い思いな年齢を発言する。ガスで視界不良なクロトノハゲから花崗岩の作り出す地形の眺めは叶う事無く、汗を出すだけの山行になろうか。お客様が若干少ないゴンドラ山頂駅のレストランの片隅で昼食をさせて頂いた、ここでも感謝の言葉を忘れず。蓬莱山頂上で展望も良くなく早々と立ち去る。今回の山行若干気温は低いが、湿度が非常に高く行動に伴う発汗と視界不良で気分が爽快になることは最後まで殆ど無かった。ただ手入れされた植林と自然林の美しさと、どこからか出てきた蛙に道々癒された(?)一日であった。記:大西(征)</p>								
連番	407	例会No.	OP154	内容	京都北山・清滝川毘沙門谷廻行	実施年月日	2011/8/28	担当者	板谷、安部
参加者	板谷佳史、安部泰子、近藤さとみ、安岡和子、寺島直子、黒澤百合子、本郷善之助、奥中種雄、川守田康行、宮平良雄、長瀬茂正							参加者数	11
担当者コメント	<p>車が混雑する京都市街を抜け、高雄へ…。バスは更に山間部を走り、毘沙門橋バス停で下車。谷はすぐその橋の下から始まる。今年3回目の沢登り例会で、参加者の息も合ってきたのかザイルの使用時にも要領よく進めることができた。谷のスケールは小さく、それほど困難な滝も無いので、参加者全員楽しめたのではないのでしょうか。特に最後の毘沙門滝のシャワークライムは真夏だからこそ味わえる醍醐味でした。また不思議なことにこの日は小さな蚊一ついない、虫が全くいない。この点でも快適な沢登りが味わえました。廻行後の下山は沢ノ池や沢山を巡って鷹峯へ下りたかったのですが、ハイキング道に迷い続けて予定外の場所へ下山してしまいました。谷中ではもちろん暑さを忘れませんでしたし、下山中も意外と涼しい天候で、やっと涼しい沢登りと言える山行ができました。記:板谷</p>								
連番	408	例会No.	OP155	内容	奥伊吹・虎子山と国見岳	実施年月日	2011/9/4	担当者	三原、翁長
参加者								参加者数	
担当者コメント	荒天中止								
連番	409	例会No.	一般246	内容	ベーシック登山No. 8 京都西山・沓掛山	実施年月日	2011/9/10	担当者	秋田、野原
参加者	秋田文雄、野原勇、三原知未、三原博子、山本洋、岡本佳久、上原進一、田中治、喜多田恵美子、藤田喜久江、宮平由紀子、三浦清江、齋藤容子、田中智子、津川洋子、保木道代、樺田克彦、紀伊塾本節雄、紀伊塾本博美、岩崎憲代、新里トヨ、寄川都美子、山下登志子、安本昭久、安本嘉代、福田直也、實操綾子							参加者数	27
担当者コメント	<p>上桂駅より西の方向に登山口まで一直線に向かうと京都西山らしい竹林の道なる。ここから唐櫃越えの入口(唐櫃とは遺骨を納める石棺をいい、この辺に古墳が散在していたらしい。唐櫃越えは、昔は関所逃れの間道となっていた。また天正10年明智光秀が本能寺に攻めた時この道を通つたと言われている。(近くに明智越え、老ノ坂越えがある。)竹林の静かな道を20分登ると六地藏とお墓に着く。前日まで涼しい日が続き今日のこの暑さはこたえる。此れよりは竹林と雑木林と区分された登山道を行くと丁塚の地名の標示に出る。此れより雑木林の緩やか登山道を登ると沓掛山の三角点頂上に着く。昼食を済ませ、みすぎ山に向かうが、老ノ坂分岐の車道に出るここで体調の悪い人もおり、予定を変更して西山団地経由老ノ坂バス停に下山する。 ルート変更のリーダー判断 1) 体調の悪い人を第一に元気な内に安全に下山させる。 2) 急な暑さで登山中高温と湿度の高い為に登山を続けると熱中症になる確率が高い。 3) 時間的にあと約2~3時間かかると思われる。飲み水も各自少ないと思われる。 4) 初心者を中心のパーティでは分ける事は非常に危険で絶対すべきでない。 以上が主なルート変更の判断です。我々は安全と健康の登山を心がけるべきである。まして、無理をして予定通り行けても帰宅後身体を悪くしたり、病院通いするようでは安全登山とは言えない。記:秋田</p>								
連番	410	例会No.	OP156	内容	大峰・上多古川伊坪谷廻行	実施年月日	2011/9/18~19	担当者	板谷、長瀬
参加者	板谷佳史、長瀬茂正、本郷善之助、黒澤百合子、安部泰子、川守田康行、小椋美佐、安岡和子、宮平良雄							参加者数	9
担当者コメント	<p>台風15号の影響で前日までの予報から判断すると、実行をためらった。しかし出発当日になると19日後半までは不安の無い天候が期待できそうなので、実施することとした。上市駅前集合後入手した道路情報では国道169号の迫付近が稜線から吉野川河原まで崩落で埋められ通行止め、ただし迂回路が確保されている…とのことなので、予定通り出発する。伊坪谷は上多古川左岸に流れ込む支谷としては最大であるが、上多古集落の水源となっていて取水設備のある箇所までは生活臭っぽく割愛したが、その先は大峰の沢登り初級コースとして技術習得味も価値充分と思われる。今回は幸いにも前夜半からは絶好の月夜となり、朝から快晴に恵まれた。やはり太陽の元でのシャワークライムは心置きなく楽しめるというものだ。下降路の予定は谷沿いの仕事道ということにしていたが、一部は谷の下降となるし、ルート探しに苦労するよりは…ということで勝負塚山を経由すれば、急傾斜とはいえ勝手知った登山道を下ることができるので変更した。谷中や登山道のジメジメした場所で、ヒルが多数見かけられ、被害者も発生、大峰北部にまでヒルが蔓延していることを改めて確認できたのは計算外でしたが…。記:板谷</p>								
連番	411	例会No.	一般247	内容	六甲・石楠花山	実施年月日	2011/9/25	担当者	大西(征)、三原
参加者	大西征四郎、三原秀元、寄川都美子、保木道代、寺島直子、紀伊塾本節雄、紀伊塾本博美、本郷善之助、奥中種雄、福田直也、宮平由紀子、柴田弘子、堀木宣夫、樺田克彦、岸田暎子							参加者数	15

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

担当者コメント  
 新神戸駅の下をくぐると、早速よく整備された山道となる。台風15号の雨の後の為、布引雄滝の水量は豊富で、町から20分も歩かないところの滝とは思えないほど堂々としている。布引貯水池の堰堤も石作りで歴史を偲ばれる立派な物である。布引川の左岸を歩き地獄谷の出会いからトエンティクロスが始まる。トエンティクロスとは谷を20回も渡るとい意味らしいが今では実際6回飛び石や木の橋を渡ったりしたのみでした。今日は水量が多く徒渉は大丈夫かなと心配したが、靴の下を濡らす程度で済みほっとしました。緩やかなこの谷も大雨の爪あとが2、3mの高さまで濁流が流れた形跡が所々に残っているのには驚きでした。石楠花山へは黄蓮谷に入り急な尾根を一気に登り一汗掻いて、石楠花山の展望台に到着、昼食とする。石楠花山と言うからには石楠花の木が在るのかなと思うが、注意してみても1本も見当たらない。きっと昔は在ったのだろうなと色々と想像する。昼食後、2等三角点の頂上を踏み、下山は灰ヶ谷より六甲の裏側の谷上駅に下る。西六甲は東六甲と比べ非常に静かで、これが六甲かと思うくらい奥深い感じさえするところもあるものです。今日は曇り空のせいもあり比較的涼しい一日でした。 記:三原

連番	412	例会No.	OP157	内容	美濃平家岳、平家岳、鷲鞍岳	実施年月日	2011/9/30~10/2	担当者	三原、翁長
参加者	三原秀元、翁長和幸、笠松マサエ、近藤さとみ、寄川都美子、寺島直子、小椋美佐、村浪義光							参加者数	8

担当者コメント  
 美濃平家岳(1日目)  
 天気は夜から雨で土曜日の午前中まで雨という予報の中、車2台で大阪を出発する。テント場に到着よりポツリポツリとやってきたが何とかテントを張り終えるまでは大した降りもなく濡れずにすむ。明日は10時間以上の行動が待っているののですぐにシュラフにもぐり込む。夜中には本降りの時もあったが未明には雨は上がっていたので出発とする。林道は未だ2キロほど続いているが最近の大雨の影響が相当荒れているので、歩いて登山口へ向かう。面谷の徒渉点からは急登が始まる。稜線の鉄塔目指して高度を稼いでいく。この時季紅葉には未だ早いし花類はもう終わっているがリンドウのみがブナやミズナラの林の中に秋を感じさせてくれる。稜線に上がれば、正面に平家岳がこんもりと大きく現れる。美濃平家岳の方は少し遠いのと樹林の山なので頂上ははっきりとは判りにくい。天気は急ピッチで回復してきて白山や奥美濃の山々、荒島岳も真近である。美濃平家岳と平家岳の分岐に到着、ここから美濃平家岳は往復4時間、平家岳往復は1時間、先に美濃平家岳へ行くことにする。平家岳は地図上に山名も出ているが美濃平家岳の方は1450mの標高のみで山名も出ていない。しかしこの越美国境山脈の最高点であるのでこの美濃平家岳を登らずして平家岳へ登ったとは言えないのである。さてこの山は登山道から外れているので少しの藪は覚悟していたが、取り付け点は判ったものの猛烈な藪ごぎを強いられて、やっとの思いで皆で最高点の山名札を探し出す。この山には昔の奥美濃の山の状態が未だ残っていたなあと変に嬉しくなってくる。分岐まで戻り、時間も大分オーバーしているので平家岳へは元気な者だけで行くことにして一部は先に下山する。素晴らしい展望の山頂を楽しんだ平家岳組は帰りにマイタケをどっさりゲットして帰ってくる。8人のメンバーで分けても余りあるくらいの収穫である。宿舎で見ってもらったら天然のマイタケは料亭でしか使わない値打ち物らしい。予期せぬ天気にも恵まれ、お土産まで持ち帰れてみんな大満足でした。  
 鷲鞍岳(2日目)  
 昨日は12時間の行動で2つの山を登り、疲れているのではと心配していたが女性軍はみんな元気を出発する。この山はブナの原生林で有名らしく遊歩道などもあるが結構稜線に出るまでは急登である。稜線はブナ、ナラ、栗の木など自然林の素晴らしい緩やかな散歩道である。九頭竜湖を眼下に見下ろす展望台に立てば平家岳が堂々とその大きな山容を楽しませてくれる。鷲鞍岳の頂上は展望はないが明るくて気持ちのよいところだ。ここでランチタイムとし、下山は北へ延びる尾根を下る。この尾根のブナの原生林も見事で樹齢何百年もの大樹が何本も出てくる。こんなブナ林には熊もきつというんだらうと想像しながら歩いていると、案の定熊の大きなウンチが登山道の真ん中に落ちている。鈴や笛を鳴らしての下山となる。二日間とも全く登山者に会わない静かな初秋の山行でした。昨日今日と全く人に会わない静かな樹林の山旅を味わい帰路につく。 記:三原

連番	413	例会No.	OP158	内容	駒ヶ岳と雨飾山	実施年月日	2011/10/7~9	担当者	本郷、紀伊壱本
参加者	本郷善之助、紀伊壱本節雄、畑山禮子、柴田弘子、笠松マサエ、紀伊壱本博美、田中智子、保木道代、安岡和子、寄川都美子、松田芳治、金忠會							参加者数	12

担当者コメント  
 10/8(土)  
 夜行寝台急行きたぐに号にて出発。連休前で列車も満員、早朝糸魚川到着。すでに白馬在住の松田氏が車で到着していた。駅前のコンビニで買い物を済ませ、予約のタクシー2台で出発。海谷三峽パーク駐車場へ、きれいに整備されたキャンプ場で設備も充分だ。眼前には千丈ヶ岳の大岩壁を見ることが出来る。松田氏の車へ手荷物を置いて出発する。とざんどうの車道を少し行くとログハウス風のロッジがある。車道はここまで、小沢に出て沢沿いに道は続く、小沢から離れ標高を上げると、ハシゴが現れ、続いてロープをつけられて、きつい登りとなり急登が続く。しばらく進むとすだいに傾斜は緩くなり静かなブナ林へと入って行く。ブナの泉を過ぎるとやがて尾根に出る。左手に海谷山塊の阿弥陀山が美しく見えてくる。さらに登ると根知谷コースと合流し、駒ヶ岳山頂に着いた。雨飾山が眼前にその奥に白い北アルプスが望まれる。これから先、鋸岳、鬼ヶ面山と続く特異なピークが見える。左手奥に焼山も望まれた。下山は慎重に確実に下るよう注意する。予定より少しおくれて駐車場へ、あとは雨飾山荘へ直行する。  
 10/9(日)  
 夜は温泉に入りゆっくり休むことが出来た。小屋は満員にかかわらず一部屋4人で使用、十分だ。4時起床、5時半朝食、6時10分出発。早い人はヘッドランプを点けて5時頃出発する人もいた。登山道は露天風呂の裏手から始まる。いきなり湿った露岩まじりの急登が続く、下りはいやな所だ。薬師尾根に取りつき30分も登ると大きな杉の木がある。振り返ると鋸岳や鬼ヶ面山が見えるようになり中の池に着く。ここから再び急登となり沢状で足場の悪いガレ場を登り、しばらく行くと鋸岳や鬼ヶ面山が左下に見えてくるようになり、更に登ると頭上が明るく開けて笹平に着く。左手のピークには小谷温泉から登ってきた人で満員だ。笹平の中をジグザグに道は雨飾山へと続き人の波も続いている。望む山頂も人でいっぱい、30分で行ける所も今日は1時間は必要だ。待機を何度も繰り返してやっと山頂に立つ。人気の百名山・雨飾山は超満員で山頂は順番待ち、時間が気になる。展望もそこそこ下山する。これも順番待ちでやっとのことで笹平の合流点へ戻って来た。途中でタクシーの時間を1時間遅らせる連絡をする。予定より1時間半おくれて下山する。下山後期待の温泉「都忘れの湯」も割愛してタクシーに乗り、糸魚川駅に着いた。 記:本郷

# 2011年度(10/11~11/10)EPEクラブ活動報告

2011/10/E現在 板谷

連番	414	例会No.	一般248	内容	ベーシック登山No. 9 三草山	実施年月日	2011/10/10	担当者	秋田、小椋(勝)		
参加者	秋田文雄、小椋勝久、堀木宣夫、山下登志子、田中治、福田直也、上原進一、和田都子、藤田喜久江、三原知未、三原博子、喜多田恵美子、樺田克彦、近藤さとみ、高木恵美子、實操綾子、青木義雄、翁長和幸、辻角ますみ								参加者数	19	
担当者コメント	秋の行楽シーズの三連休の最後の日にのんびりと秋の里山を楽しむべく森上バス停。今日は天気も暑くも寒くもなく行楽日和で慈眼寺に向けて出発。岐尼神社(神社は秋祭りでだんじりも出て賑わっていた)前を通り間もなく長谷川沿いに車道の右横に小さな案内板に従って、長田川沿いに行くが慈眼寺に折れる道が分からず、三草山と長田の棚田は分かるが。地図を片手にキョロキョロと、なんとか慈眼寺に着く。相変わらず車道を行くとオノ神峠の標識がある。ここから長田の棚田が見える。長田の棚田の近くで畑の土手で一列に並び昼食をとるが、のんびりとした風景で棚田は稲刈りが終わった後。しかし土手にはコスモスとススキが咲き何といっても茅葺屋根に柿の木が実った、この風景は子供の頃の日本の心の故郷だ。皆な童心に帰り遠き昔の遠足を思い出し、風景と昼食を楽しんだ。長田を後に、舗装された道を30分ほどでオノ神峠に着く。峠は古くから摂津丹波の交通の要所で能勢路最古の石の道標。源平合戦の三草山の勢揃いの案内板など、歴史ある峠です。此れより三草山には登山道らしい道で少し急な木の階段上登ると三草山の頂上で三等三角点があり、解放的な展望が広がり北摂の南部の山々(妙見山、中山連山、堂床山、愛宕山、大舟山、その他)が一望できる。下山は稜線を巻くように、ゼフィルスに、この辺は雑木林ながら(ゼフィルスとは日本に生息するミドリシジミ類の蝶のことで、ゼフィルスという愛称で呼ばれている小型の蝶)トランス協会のボランティアにより美しい森林に保たれている。ここを下るとコンクリート道をしばらく行くと慈眼寺に、そのまま前の車道を行くと来た道をたどれば森上バス停。今日一日のどかな能勢の山に日本の里山の風景を満喫した、楽しい一日でした。 記:秋田										
連番	415	例会No.	一般249	内容	竜神山・三星山	実施年月日	2011/10/16	担当者	翁長、板谷		
参加者	翁長和幸、板谷佳史、奥中種雄、宮平良雄、大西征四郎、田中智子、寺島直子、神阪洋子、小椋美佐、寄川都美子、保木道代、樺田克彦、松本明恵								参加者数	13	
担当者コメント	前夜の激しい雨も止み、当日は気持ちのよい秋晴れにめぐまれた。そんな中、佐向谷登山口→流星の辻→竜神社→三星山→流星の辻 →佐向谷登山口とラウンドしてきた。登山口の鳥居に向かってコースらしきものは3つあった。右のものは佐向谷から離れていくような感じでこれはダメ(これが本来のコースだった)。真ん中のコースは沢身に入っていくようだが、今日は水量が多くこれもダメ。左の橋を渡っていくコースをたどる事にした。しかし、すぐに道は無くなり煩わしい藪こぎとなる。ここは廃道のような。大きな岩を回り込んだ所で正規のコースに出た。流星の辻で左折し、しばらく登ると鳥居の向こうに、ナメ滝状の数段の滝が現れた。竜神山の名前のいわれとなった滝でご神体との事。見栄えのする清廉な滝だった。竜神社までいくと樹齢400年と云われるウバメガシの巨木が現れる。こんな大きなものは珍しく「県の天然記念物に指定されている」と解説があった。八幡宮に寄ってみる。展望が良く気持ちの良い所だ。田辺湾は良く見えたが、残念ながらその向こうの太平洋は霞んで見えなかった。表参道とこの周辺の道はよく整備されているが、三星山への登りはハッキリしない。何となく登って頂上に着いたという感じだ。途中スリリングな岩場があると資料にあったので、その通過を気にしていたのだが、EPEのメンバーは危なげ無しに登ってくる。頼もしい仲間達だ。三星山の頂上では休憩もそこそこにし、西岡の科尔へ向かう。科尔からは踏み跡を探しながらの下りとなり流星の辻へ。大きな岩を回り込む所で、飛び石伝いに対岸へ渡ると、しっかりと山道が続いていた。佐向谷の高巻き道のような山道で、これを下っていくと朝出発した登山口に出た。結局、登山口からの取り付きは鳥居に向かって右の道だったのだ。ミカン山を下る途中でタクシー待ちをする。こんな時、仲間同士で雑談をしながら、何かホッとするものを感じる。山が低くても登ったという事が嬉しく思うのだ。これがいわゆる至福の時(少しオーバーかな?)というのか。天候が良く何よりの山行であった。下山して思うこと三星山周辺は入山者が少ないようでコースがハッキリしないように感じる。けもの道程度の所が何箇所もあった。山馴れない人には注意が必要だと思われる。4年前に流星の辻から西岡の科尔へ向かった登山者が、道迷いの遭難を起こし大騒動があったようだ。山の遭難は他人事ではありません。私達も充分注意し存分に山を楽しみましょう。 記:翁長										
連番	416	例会No.	一般250	内容	丹波・石戸山～高見城山	実施年月日	2011/10/23	担当者	板谷、長瀬		
参加者	板谷佳史、長瀬茂正、保木道代、岸田暎子、谷村洋子、黒澤百合子、安本嘉代、青木義雄、寄川都美子、寺島直子、福田直也、西田保、奥中種雄、樺田克彦								参加者数	14	
担当者コメント	神社仏閣や城跡と、山がセットになっている例は多い。今回はその全てが揃った一例。これに季節がうまくかみ合えば、申し分のない山旅となるどころだが、今回は季節の点では多少的外れな感がある。錦秋の紅葉ともなれば、へたな花見などよりもはるかに彩り豊かで、心に響くものがある。高山であればすでに紅葉の季節であろうが、低地では未だ緑が濃く、かと言って花の多い時期は過ぎ去っており、その端境期となって山はいささか彩りに欠ける。マツタケだけがシーズンで、今回もそれによる入山禁止を危ぶむ声も聞かれたが、幸いこの山域にはそのような入山規制は全く見かけなかった。「里山」の定義をよく知らないが、「里に近い」ことが条件ならば、丹波の山は全てそれにあたると思う。樹林に遮られていない限り、展望の中に里の風景が含まれない山はまず無かろう。どれだけ迷ってもともかく下を目指せば、そう遠くない範囲で里に出られる。そのくせ、猪、鹿、熊の痕跡はもちろんのこと、現物と出くわすことも稀ではない、最近ではそれらが里に現れるのも普通のようなことから、その点でも条件を満たす。はでな広告宣伝で紹介される山やルートも良いが、人知れず歴史に埋もれたわずかな踏み跡を拾って辿る丹波の山はまだ奥が深く、残る人生では登り切れないほど有るのである。 記:板谷										
連番	417	例会No.	一般251	内容	鴨越を巡る山々	実施年月日	2011/10/30	担当者	紀伊榎本、小椋(勝)		
参加者	紀伊榎本節雄、小椋勝久、和田敬子、杉本栄子、寄川都美子、三原知未、三原博子、樺田克彦、横内まみね、田中智子、松本明恵、西村晶、紀伊榎本博美								参加者数	13	



<p>担当者 コメント</p>	<p>源平合戦・義経一の谷逆落としには謎が多い。なにしろ800年以上前のことだから、少々話しの尾ひれが付いても可笑しくはない。歴史上、そのとき平家が源氏に敗れたという事実の他は、全て想像の余地がある。前回の例会「須磨一の谷」はこれまでの通説をただ確認するだけのもの、義経がそこで何らかの奇襲を行ったとは到底思えない。もっと辻褄の合う話があるはずだ、それが「義経逆落とし第2編」につながった。(前回のコメント文を参照ください)今日は雨の予報であったが、午後2時過ぎまで空は泣き泣きもってくれた。予定のコースは終盤に向かい、大山咋神社(おおやまくい)から雪見御所に向かう坂道になってようやく本降りになった。この辺りが私の思う義経逆落とし、いや義経奇襲の現場である。しかしそこはもう街のなかである。雪見御所の地名は残されているが、それなりの想いをもって歩む人をのぞけば、何の変哲もない街の姿である。雪見御所(ゆきみのごしよ)は平清盛が福原京の要とした館である。だが清盛亡き後、この合戦の総大将平宗盛(清盛三男)は約2キロ下った大輪田泊(港)を本陣と定めた。雪見御所は女、子供、女官たちの避難所となった。或いは、幼き安徳天皇、その母高倉皇后、さらにその母清盛の妻時子が滞在していたかもしれない。義経はこの雪見御所を背後の山から奇襲したのである。逆落としという表現は単に急な坂道を現すだけではない。義経の戦術は当時の合戦の常道(しきたり)を敢然として破るものである。壇ノ浦の戦いでも、漕ぎ手を的に射てと命じたのは義経である。天才かそれとも異端児か、ともあれ義経の行動は常軌を逸し逆破るものである。謎ときの鍵はここにあると思う。</p> <p>私たちは中井谷川と天王谷川とが合流する三角台地の南端まで歩いて行った。その先端は大艦の切っ先そのものである。雪見御所は天然の要害に守られていた。しかし、振り返ると背後の山が迫っていた。火を放なされ、逃げ惑う女官や雑兵たちの駆け込む先は2キロ下の大輪田泊の本陣と、その背後に備えた平家船団である。火はやがて黒煙となり騒ぎは増幅する。東に生田の森、北や北西に広がる前線の兵士達は背後の本陣が襲われたと動揺するだろう。一つの綻びはやがてなだれを打って前線の崩壊をまねく。合戦開始より2時間も遅れて参戦した義経、そのあとわずか2時間で壊滅した平家軍。西に約8キロも離れた須磨の砦は、東より逃れてきた平家軍を逆に袋のねずみと化し、平敦盛をはじめ、多くの武将達の悲劇を生むことになる。これで私の辻褄は合う。義経逆落としがあろうと無かろうと、義経の雪見御所奇襲によって勝敗は決したのである。義経の行為が是か非か、それは現代人の論ずるものではない。逆落としの現場を求めて、私の神戸通いは下見の域をとくに過ぎていた。平家陣営を巡り歩き、逆落としの幻影に惑わされ、藪山から街へ、街から藪山へ幾度さまよったことか、笑止の沙汰と自分でも思う。それだけハイキング+歴史探訪は魅力あるテーマである。コメント文はハイキングの内容を無視しているかに見えるが、決してそうではない。山歩きの足腰があつての歴史探訪である。ハイキングの様子は掲載された写真からご覧下さい。 記:紀伊塾本</p>
<p>一般例会(新年会含む) : 40回 / 710名 オプション例会 : 16回 / 163名 例会合計 : 56回 参加者総数 : 873名</p>	